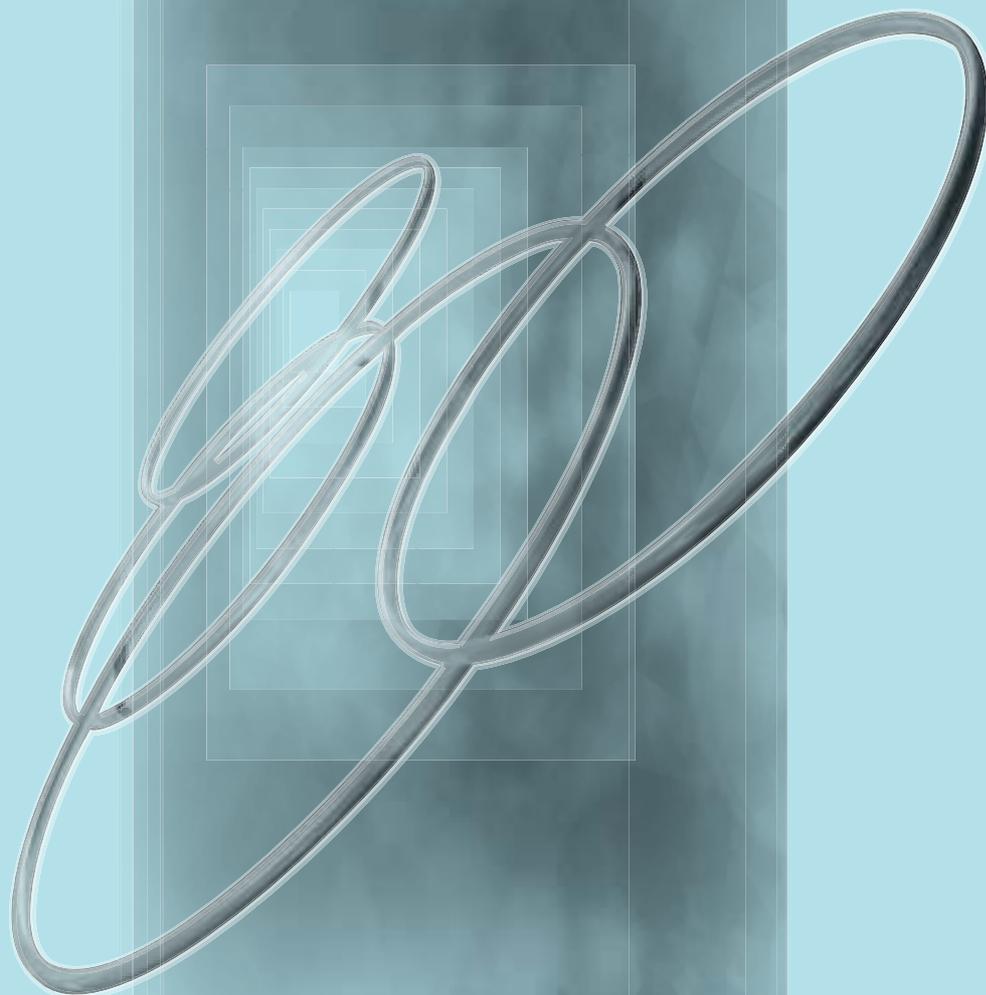


2007年度

# シラバス フランス語学科

---



# フランス語学科 シラバス

## 【総合目次】

- ◆ シラバスの見方
- ◆ 授業科目表の見方
- ◆ 授業科目特性表
  
- ◆ **【2003年～2007度以降】入学生用**
  - 学則別表…………… I – 1
  - 授業科目目次…………… I – 2～4
  - 外国語学部共通科目…P76以降に掲載
  
- ◆ **【2002年度以前】入学生用**
  - 学則別表…………… II – 1
  - 授業科目目次…………… II – 2～4
  - 外国語学部共通科目…全学共通授業科目のシラバスに掲載

# 【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の「フランス語学科」授業科目及び「外国語学部共通科目」と、2002年度以前入学生用の「フランス語学科」授業科目のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

## \*履修不可学科の表記

外：外国語学部  
 独：ドイツ語学科  
 英：英語学科  
 仏：フランス語学科  
 言：言語文化学科  
 言（\*1）：言語文化学科、スペイン語履修者  
 言（\*2）：言語文化学科、中国語履修者  
 全：フランス語学科以外

養：国際教養学部言語文化学科  
 経：経済学部  
 済：経済学科  
 営：経営学科

法：法学部  
 律：法律学科  
 国：国際関係法学科

## \*上段は、春学期科目です。

①適用年度	② 科目名	③ 担当者
<b>春学期</b>	④ 講義目的、講義概要	
	⑤ 授業計画	
	第1週	
	第2週	
	第3週	
	第4週	
	第5週	
	第6週	
	第7週	
	第8週	
	第9週	
	第10週	
第11週		
第12週		
⑥ テキスト、参考文献		⑦ 評価方法

### ①② 適用年度 科目名について

<03~05>

2003年度～2005年度入学者を対象とした科目です。

<06~07>

2006年度～2007年度入学者を対象とした科目です。

<空欄>

2003年度～2007年度入学者を対象とした科目です。

### ③ 担当教員氏名

④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。

⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとの講義するテーマ、あるいは当該学期に扱う項目を記載してあります。

⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。

⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

## \*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

①適用年度	② 科目名	③ 担当者
<b>秋学期</b>	④ 講義目的、講義概要	
	⑤ 授業計画	
	第1週	
	第2週	
	第3週	
	第4週	
	第5週	
	第6週	
	第7週	
	第8週	
	第9週	
	第10週	
第11週		
第12週		
⑥ テキスト、参考文献		⑦ 評価方法

### [注意事項]

#### 受講定員について

科目の中には定員制のものがあります。それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

# 学則別表の見方(2005年度入学フランス語学科生用)

\*このページで見方を覚えて、自分の入学年度の学則別表で理解してください。

I類・II類の選択は5学期の履修登録時に行ないます。

単位数：その科目を修得した時に得られる数字。各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等が必要です。

必修科目：必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければいけない。

選択必修科目：この範囲にある科目の中からその数字の単位数分を修得する。(例：フランス語学概論a・b(2単位×2科目)の合計4単位修得)4単位以上修得した場合は選択の単位数に加算される。

選択科目：矢印の範囲内から数字の単位数以上を修得する。

外国語学部共通科目：科目についてはシラバスの後半部分に掲載。(修得単位は選択に加算される)

全学共通授業科目(全カリ)のシラバスから選んで登録する。英語は指定(指定科目以外も受講可能)。そのほかはオンラインによる抽選がある。

学則別表	科目	単位数	I類				II類				
			必修	選択必修	選択	選択	必修	選択必修	選択	選択	
フランス語学	フランス語 I a	1	12				12				
	フランス語 I b	1	10*				10*				
	フランス語 II a	1	12				12				
	フランス語 II b	1	12				12				
基礎	総合フランス語a	2									
	総合フランス語b	2	4				4				
フランス語学	フランス語文章表現法a	2									
	フランス語文章表現法b	2									
	和文仏訳a	2		4							
	和文仏訳b	2									
	フランス語会話a	2									
	フランス語会話b	2									
	時事フランス語a	2									
	時事フランス語b	2									
	商業フランス語a	2									
	商業フランス語b	2									
	商業フランス語c	2									
	フランス語学・文学	フランス語学概論a	2								
フランス語学概論b		2		4							
フランス文学概論a		2									
フランス文学概論b		2									
フランス語史a		2									
フランス語史b		2									
フランス文学史a		2									
フランス文学史b		2									
フランス語学各論a		2			8						
フランス語学各論b		2									
フランス文学各論a		2									
フランス文学各論b		2									
フランス文化・社会	フランス語学講義a	2				16**			16**	22	
	フランス語学講義b	2									
	フランス文学講義a	2									
	フランス文学講義b	2									
	フランス文化・社会概論a	2								4	
	フランス文化・社会概論b	2									4
	フランス事情	2									
	フランスの地理a	2									
	フランスの地理b	2									
	フランスの歴史a	2									
	フランスの歴史b	2									
	フランスの思想a	2									
フランスの思想b	2										
フランスの美術a	2										
フランスの美術b	2										
フランスの音楽a	2										
フランスの音楽b	2										
フランスの演劇a	2										
フランスの演劇b	2										
フランスの政治a	2										
フランスの政治b	2										
フランスの経済a	2										
フランスの経済b	2										
フランス文化・社会各論a	2										
フランス文化・社会各論b	2										
フランス文化・社会講義a	2					16**				16**	
フランス文化・社会講義b	2										
卒業論文	4										
外国語学部共通科目(別表1-5)											
全学共通授業科目(全カリ)											
全学共通授業科目(全カリ)			4				4				
全学共通授業科目(全カリ)				8				8			
全学共通授業科目(全カリ)				4				4		4	
全学共通授業科目(全カリ)					4				4		
全学共通授業科目(全カリ)						4				4	
全学共通授業科目(全カリ)											
英語以外の外国語科目											
古典語科目											
演習a	2	4						4			
演習b	2	4						4			
卒業に必要な単位数合計			50	48	30		30	52	26		
						128				128	

I類:主としてフランス語学・文学を専攻  
II類:主としてフランス文化・社会を専攻

フランス語既修者はこちらの単位数を修得しなければならない

それぞれの類の2ヶ所についている「16\*\*」について・・・  
2ヶ所の範囲の科目の中から合計16単位分を修得する

備考  
 (1) \* フランス語既修者に適用される。  
 (2)\*\* 「語学講義」・「文学講義」又は「文化・社会講義」の中から16単位選択必修。  
 (3) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代替できる。  
 ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
 なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。  
 (4)\*\*\*全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。  
 ○本表は、2005年度入学者から適用する。

全カリ、各カテゴリーの選択必修必要単位数の他にさらに4単位を修得しなければならない。(英語も含んでOK)4単位以上修得した場合は**学科の選択**に加算される。

**卒業するまでには最低限128単位が必要**



卒業・進級判定時に全カリの科目が不足している場合のみ**教職課程科目を全カリ科目に読み替える**ことができます。読替可能単位数は20単位まで。ただし、**学科の選択に加算することはできません。**

# フランス語学科科目特性表 (2005~2007年度入学用)

科目群	部門	科目名	学期配当								備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	
学科基礎科目	フランス語	フランス語Ia・b(文法)	●	●	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		フランス語Ia・b(総合)	●	●	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		フランス語Ia・b(講読)	●	●	○	○	○	○	○	○	クラス指定 既修者のみ
		フランス語Ia・b(会話)	●	●	○	○	○	○	○	○	クラス指定 未修者のみ
		フランス語Ia・b(LL)	●	●	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		フランス語IIa・b(文法)			●	●	○	○	○	○	クラス指定
		フランス語IIa・b(講読)			●	●	○	○	○	○	クラス指定
		フランス語IIa・b(総合)			●	●	○	○	○	○	クラス指定
		フランス語IIa・b(会話)			●	●	○	○	○	○	クラス指定 未修者のみ
		フランス語IIa・b(TP)			●	●	○	○	○	○	クラス指定 既修者のみ
		フランス語IIa・b(文章表現)			●	●	○	○	○	○	クラス指定
全学共通科目	英語		○	○	○	○	○	○	○	全学共通授業科目の「英語」を参照のこと	
学科共通科目	フランス語	総合フランス語a・b					●	●	○	○	aとbを併せて履修すること 受講指定
		フランス語文章表現法a・b					○	○	○	○	重複履修可
		和文仏訳a・b					○	○	○	○	重複履修可
		フランス語会話a・b					○	○	○	○	重複履修可
		時事フランス語a・b					○	○	○	○	重複履修可
		商業フランス語a・b					○	○	○	○	aとbを併せて履修すること 重複履修可 ただし同一学期内同一教員不可
学科専門科目	フランス語学・文学	フランス語学概論a・b					○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランス文学概論a・b	●	●	○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランス語史a・b					○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランス文学史a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランス語学各論a・b					○	○	○	○	重複履修可
		フランス文学各論a・b					○	○	○	○	重複履修可
		フランス語学講読a・b					○	○	○	○	重複履修可
		フランス文学講読a・b					○	○	○	○	重複履修可
	フランス文化・社会	フランス文化・社会概論a・b	●	●	○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランス事情			○	○	○	○	○	○	重複履修可 ただし同一教員不可 合計4単位まで
		フランスの地誌a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランスの歴史a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
		フランスの思想a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること 重複履修可
		フランスの美術a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること 重複履修可
		フランスの音楽a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること 重複履修可
		フランスの演劇a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること 重複履修可
		フランスの政治a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること
フランスの経済a・b			○	○	○	○	○	○	aとbを併せて履修すること		
フランス文化・社会各論a・b					○	○	○	○	重複履修可		
フランス文化・社会講読a・b					○	○	○	○	重複履修可		
卒業論文								○			
外国語学部共通科目										学部共通科目のページを参照	
全学共通授業科目										全学共通授業科目のページを参照	
演習a・b						●	●	●	●	aとbを併せて履修すること 受講制限あり 5学期から8学期で履修	

備考：(1) 学期配当欄の○印は履修できる学期を、●印は履修が望まれる学年を示します。  
 (2) 担当教員により受講者数を制限する場合があります。

学則別表(2003年度以降入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	フランス語	フランス語 I a	1	12			12		
		フランス語 I b	1	(10)*			(10)*		
		フランス語 II a	1						
		フランス語 II b	1	12			12		
科授共全 目兼通学	英語			10 (12)*		4 ***	10 (12)*		4 ***
学科共通科目	フランス語	総合フランス語a	2						
		総合フランス語b	2	4			4		
		フランス語文章表現法a	2						
		フランス語文章表現法b	2		4			4	
		和文仏訳a	2						
		和文仏訳b	2						
		フランス語会話a	2						
		フランス語会話b	2						
		時事フランス語a	2						
		時事フランス語b	2						
		商業フランス語a	2						
		商業フランス語b	2						
学科専門科目	フランス語学・文学	フランス語学概論a	2						
		フランス語学概論b	2		4				
		フランス文学概論a	2						
		フランス文学概論b	2						
		フランス語史a	2						
		フランス語史b	2						
		フランス文学史a	2						
		フランス文学史b	2			8			
		フランス語学各論a	2						
		フランス語学各論b	2						
		フランス文学各論a	2						
		フランス文学各論b	2						
		フランス語学講読a	2						
		フランス語学講読b	2		16**	26		16**	22
		フランス文学講読a	2						
		フランス文学講読b	2						
	フランス文化・社会概論a	2							
	フランス文化・社会概論b	2					4		
	フランス事情	2							
	フランスの地誌a	2							
	フランスの地誌b	2							
	フランスの歴史a	2							
	フランスの歴史b	2							
	フランスの思想a	2							
	フランスの思想b	2							
	フランスの美術a	2						8	
	フランスの美術b	2							
	フランスの音楽a	2							
	フランスの音楽b	2							
	フランスの演劇a	2							
	フランスの演劇b	2							
	フランスの政治a	2							
フランスの政治b	2								
フランスの経済a	2								
フランスの経済b	2						4		
フランス文化・社会各論a	2								
フランス文化・社会各論b	2								
フランス文化・社会講読a	2								
フランス文化・社会講読b	2		16**			16**			
卒業論文			4						
外国語学部 共通科目(別表 IV)	外国語学部共通科目(別表 I-5)								
	全学 総合科目 (別表 IV)	カテゴリー I		4			4		
		カテゴリー II			8			8	
		カテゴリー III			4			4	4
		カテゴリー IV			4	4		4	***
		カテゴリー V							
英語以外の外国語科目 古典語科目									
演習a			2	4			4		
演習b			2	4			4		
卒業に必要な単位数合計				50	48	30	50	52	26
				128			128		

備考

- (1)\* フランス語既修者に適用される。
  - (2)\*\* 「語学講読」、「文学講読」又は「文化・社会講読」の中から16単位選択必修。
  - (3) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。  
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
  - (4)\*\*\*全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

# フランス語学科授業科目（2003年度以降入学生用）

## 目次

### 学科基礎科目

科目名	担当教員	曜限	単位数	開始学年	履修不可	ページ
フランス語Ⅰa・b(文法)	「授業時間割表」を参照してください。		各1	1	全	1
フランス語Ⅰa・b(総合)			各1	1	全	2
フランス語Ⅰa・b(講読)*06年度以降入学の既習者クラス対象			各1	1	全	3
フランス語Ⅰa・b(会話)*06年度以降入学の未習者クラス対象			各1	1	全	4
フランス語Ⅰa・b(LL)			各1	1	全	5
フランス語Ⅱa・b(文法)			各1	2	全	6
フランス語Ⅱa・b(講読)			各1	2	全	7
フランス語Ⅱa・b(総合)			各1	2	全	8
フランス語Ⅱa・b(TP)*06年度以降入学の既習者クラス対象			各1	2	全	9
フランス語Ⅱa・b(会話)*06年度以降入学の未習者クラス対象			各1	2	全	10
フランス語Ⅱa・b(文章表現)*06年度以降入学生対象			各1	2	全	11
フランス語Ⅱa・b(LL)*06年度以前入学生対象			各1	2	全	11

### 学科共通科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
		総合フランス語a	「授業時間割表」を参照してください。		2	3	全	12
		総合フランス語b			2	3	全	12
09637	春	フランス語文章表現法a	C. ヴァリエヌ	火2	2	3		13
09638	秋	フランス語文章表現法b	C. ヴァリエヌ	火2	2	3		13
09645	春	フランス語文章表現法a	Ch. ペリセロ	火3	2	3		14
09646	秋	フランス語文章表現法b	Ch. ペリセロ	火3	2	3		14
09641	春	フランス語文章表現法a	F. ルーセル	金2	2	3		15
09642	秋	フランス語文章表現法b	F. ルーセル	金2	2	3		15
09643	春	フランス語文章表現法a	M. ミズバヤシ	水1	2	3		16
09644	秋	フランス語文章表現法b	M. ミズバヤシ	水1	2	3		16
09639	春	フランス語文章表現法a	PH. ヴァネ	月2	2	3		17
09640	秋	フランス語文章表現法b	PH. ヴァネ	月2	2	3		17
09735	春	和文仏訳a	江花 輝昭	火2	2	3		18
09736	秋	和文仏訳b	江花 輝昭	火2	2	3		18
09737	春	和文仏訳a	筒井 伸保	水2	2	3		19
09738	秋	和文仏訳b	筒井 伸保	水2	2	3		19
09610	春	フランス語会話a	B. レウルス	金3	2	3		20
09611	秋	フランス語会話b	B. レウルス	金3	2	3		20
09612	春	フランス語会話a	C. ヴァリエヌ	火3	2	3		21
09613	秋	フランス語会話b	C. ヴァリエヌ	火3	2	3		21
09608	春	フランス語会話a	L. フォンテーヌ	月3	2	3		22
09609	秋	フランス語会話b	L. フォンテーヌ	月3	2	3		22
09614	春	フランス語会話a	M. ミズバヤシ	火2	2	3		23
09618	秋	フランス語会話b	M. ミズバヤシ	火2	2	3		23
09619	春	フランス語会話a	S. ジュンタ	金2	2	3		24
09620	秋	フランス語会話b	S. ジュンタ	金2	2	3		24

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09719	春	時事フランス語a	井上 美穂	木2	2	3		25
09720	秋	時事フランス語b	井上 美穂	木2	2	3		25
12687	春	時事フランス語a	中村 公子	水2	2	3		26
12688	秋	時事フランス語b	中村 公子	水2	2	3		26
09721	春	商業フランス語a	C. パジエス	月2	2	3		27
09722	秋	商業フランス語b	C. パジエス	月2	2	3		27
09723	春	商業フランス語a	大井 正博	金3	2	3		28
09724	秋	商業フランス語b	大井 正博	金3	2	3		28

## 学科専門科目

### <フランス語学・文学部門>

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09623	春	フランス語学概論a	田中 善英	月3	2	3		29
09624	秋	フランス語学概論b	田中 善英	月3	2	3		29
01635	春	フランス文学概論a	伊藤 幸次	火1	2	1		30
01636	秋	フランス文学概論b	伊藤 幸次	火1	2	1		30
09635	春	フランス語史a	田中 善英	水1	2	3		31
09636	秋	フランス語史b	田中 善英	水1	2	3		31
09681	春	フランス文学史a	横地 卓哉	木4	2	3		32
09682	秋	フランス文学史b	横地 卓哉	木4	2	3		32
09627	春	フランス語学各論a	古川 直世	火3	2	3		33
09628	秋	フランス語学各論b	古川 直世	火3	2	3		33
09665	春	フランス文学各論a	保苺 瑞穂	金2	2	3		34
09666	秋	フランス文学各論b	保苺 瑞穂	金2	2	3		34
12713	春	フランス語学講読a	田中 善英	水2	2	3		35
12714	秋	フランス語学講読b	田中 善英	水2	2	3		35
09633	春	フランス語学講読a	古川 直世	火4	2	3		36
09634	秋	フランス語学講読b	古川 直世	火4	2	3		36
09673	春	フランス文学講読a	M. ミズバヤシ	木2	2	3		37
09674	秋	フランス文学講読b	M. ミズバヤシ	木2	2	3		37
09677	春	フランス文学講読a	伊藤 幸次	水2	2	3		38
09678	秋	フランス文学講読b	伊藤 幸次	水2	2	3		38
09629	春	フランス文学講読a	近江屋 志穂	金2	2	3		39
09630	秋	フランス文学講読b	近江屋 志穂	金2	2	3		39
11420	春	フランス文学講読a	田桐 正彦	火3	2	3		40
11421	秋	フランス文学講読b	田桐 正彦	火3	2	3		40
09675	春	フランス文学講読a	筒井 伸保	木3	2	3		41
09676	秋	フランス文学講読b	筒井 伸保	木3	2	3		41
09671	春	フランス文学講読a	根本 祐徳	水1	2	3		42
09672	秋	フランス文学講読b	根本 祐徳	水1	2	3		42
09679	春	フランス文学講読a	保苺 瑞穂	火4	2	3		43
09680	秋	フランス文学講読b	保苺 瑞穂	火4	2	3		43
09669	春	フランス文学講読a	横地 卓哉	月3	2	3		44
09670	秋	フランス文学講読b	横地 卓哉	月3	2	3		44

## <フランス文化・社会部門>

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01723	春	フランス文化・社会概論a	前川 久美子	水3	2	1		45
01724	秋	フランス文化・社会概論b	前川 久美子	水3	2	1		45
01705	春	フランス事情	若森 栄樹	木2	2	2		46
01719	秋	フランス事情	中村 公子	木2	2	2		46
09606	春	フランスの地誌a	鈴木 隆	火2	2	2		47
09607	秋	フランスの地誌b	鈴木 隆	火2	2	2		47
07566	春	フランスの歴史a	藤田 朋久	火3	2	2		48
07567	秋	フランスの歴史b	藤田 朋久	火3	2	2		48
07570	春	フランスの思想a	若森 栄樹	金3	2	2		49
07571	秋	フランスの思想b	若森 栄樹	金3	2	2		49
11410	春	フランスの美術a	前川 久美子	火4	2	2		50
11411	秋	フランスの美術b	前川 久美子	火4	2	2		50
07560	春	フランスの音楽a	松橋 麻利	木4	2	2		51
07561	秋	フランスの音楽b	松橋 麻利	木4	2	2		51
07568	春	フランスの演劇a	江花 輝昭	木2	2	2		52
07569	秋	フランスの演劇b	江花 輝昭	木2	2	2		52
09600	春	フランスの政治a	井上 スズ	月2	2	2		53
09605	秋	フランスの政治b	井上 スズ	月2	2	2		53
11977	春	フランスの経済a	千代浦 昌道	火2	2	2		54
11978	秋	フランスの経済b	千代浦 昌道	火2	2	2		54
09647	春	フランス文化・社会各論a	井上 たか子	木2	2	3		55
09648	秋	フランス文化・社会各論b	井上 たか子	木2	2	3		55
09655	春	フランス文化・社会講読a	PH. ヴァネ	火2	2	3		56
09656	秋	フランス文化・社会講読b	PH. ヴァネ	火2	2	3		56
09659	春	フランス文化・社会講読a	井上 スズ	月3	2	3		57
09660	秋	フランス文化・社会講読b	井上 スズ	月3	2	3		57
09663	春	フランス文化・社会講読a	井上 たか子	木3	2	3		58
09664	秋	フランス文化・社会講読b	井上 たか子	木3	2	3		58
09657	春	フランス文化・社会講読a	鈴木 隆	水2	2	3		59
09658	秋	フランス文化・社会講読b	鈴木 隆	水2	2	3		59
09661	春	フランス文化・社会講読a	藤田 朋久	水1	2	3		60
09662	秋	フランス文化・社会講読b	藤田 朋久	水1	2	3		60
09653	春	フランス文化・社会講読a	前川 久美子	木1	2	3		61
09654	秋	フランス文化・社会講読b	前川 久美子	木1	2	3		61
09651	春	フランス文化・社会講読a	若森 栄樹	金2	2	3		62
09652	秋	フランス文化・社会講読b	若森 栄樹	金2	2	3		62

学則別表(2001・2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	フランス語	フランス語 I	2	12 (10)*			12 (10)*			
		フランス語 II	2	12			12			
	第二外国語	英語 I	2	4			4			
		英語 II	2	2			2			
学科共通科目	フランス語	総合フランス語	4	4			4			
		フランス語文章表現法	4		4			4		
		和文仏訳	4							
		フランス語会話	4							
		時事フランス語	4							
		商業フランス語	4							
	第二外国語	英語 III	2		4			4		
		英語 IV	2							
		英会話 I	2							
		英会話 II	2							
		学科専門科目	フランス語学・文学	フランス語学概論	4		4			
				フランス文学概論	4					
フランス語史	4									
フランス文学史	4									
フランス語学各論	4				8					
フランス語学各論B**	2									
フランス文学各論	4									
フランス文学各論B**	2									
フランス文化・社会	フランス語学講読		4		***	26		***	22	
	フランス文学講読		4							
	フランス文化・社会概論		4					4		
	フランス事情**		2							
	フランスの地誌		4					8		
	フランスの歴史		4							
	フランスの思想	4								
	フランスの美術	4								
フランスの音楽	4									
フランスの演劇	4									
フランスの政治	4									
フランスの経済	4									
フランス文化・社会各論	4									
フランス文化・社会各論B**	2									
フランス文化・社会講読	4		***			***				
外国語学部共通科目(別表 I-5)				28			28			
卒業論文				4						
演習				4	8		8			
卒業に必要な単位数合計				70	36	26	70	40	22	
				132			132			

備考

- (1)\* フランス語既修者に適用される。
  - (2)\*\* 半期で完結する科目である。
  - (3)\*\*\* 「語学講読」、「文学講読」又は「文化・社会講読」の中から16単位選択必修。
  - (4) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは他学部または他学科の科目の単位をもって代用できる。  
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- 本表は、2001年入学者から適用する。

# フランス語学科授業科目（2002年度以前入学生用）

## 目次

### 学科基礎科目

	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	通年	フランス語Ⅰ〔文法〕	「時間割表」を参照してください。		2	1	全	1
	通年	フランス語Ⅰ〔総合〕		2	1	全	2	
	通年	フランス語Ⅰ〔会話〕		2	1	全	4	
	通年	フランス語Ⅰ〔LL〕		2	1	全	5	
	通年	フランス語Ⅱ〔文法〕		2	2	全	6	
	通年	フランス語Ⅱ〔講読〕		2	2	全	7	
	通年	フランス語Ⅱ〔総合〕		2	2	全	8	
	通年	フランス語Ⅱ〔会話〕		2	2	全	10	
	通年	フランス語Ⅱ〔LL〕		2	2	全	11	

### 学科共通科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	通年	総合フランス語	各担当教員		4	3	全	12
01588	通年	フランス語文章表現法	C. ヴァリエヌ	火2	4	3		13
01812	通年	フランス語文章表現法	Ch. ペリセロ	火3	4	3		14
01681	通年	フランス語文章表現法	F. ルーセル	金2	4	3		15
01701	通年	フランス語文章表現法	M. ミズバヤシ	水1	4	3		16
01652	通年	フランス語文章表現法	PH. ヴァネ	月2	4	3		17
01650	通年	和文仏訳	江花 輝昭	火2	4	3		18
01777	通年	和文仏訳	筒井 伸保	水2	4	3		19
01673	通年	フランス語会話	B. レウルス	金3	4	3		20
01736	通年	フランス語会話	C. ヴァリエヌ	火3	4	3		21
01597	通年	フランス語会話	L. フォンテーヌ	月3	4	3		22
01789	通年	フランス語会話	M. ミズバヤシ	火2	4	3		23
01811	通年	フランス語会話	S. ジュンタ	金2	4	3		24
01735	通年	時事フランス語	井上 美穂	木2	4	3		25
13640	通年	時事フランス語	中村 公子	水2	4	3		26
01623	通年	商業フランス語	C. パジェス	月2	4	3		27
01814	通年	商業フランス語	大井 正博	金3	4	3		28

### 学科専門科目

#### <フランス語学・文学部門>

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01671	通年	フランス語学概論	田中 善英	月3	4	3		29
01634	通年	フランス文学概論	伊藤 幸次	火1	4	1		30
01628	通年	フランス語史	田中 善英	水1	4	3		31
01782	通年	フランス文学史	横地 卓哉	木4	4	3		32
09031	通年	フランス語学各論	古川 直世	火3	4	3		33
01713	通年	フランス文学各論	保苺 瑞穂	金2	4	3		34

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13641	通年	フランス語学講読	田中 善英	水2	4	3		35
01702	通年	フランス語学講読	古川 直世	火4	4	3		36
01752	通年	フランス文学講読	M. ミズバヤシ	木2	4	3		37
01806	通年	フランス文学講読	伊藤 幸次	水2	4	3		38
01641	通年	フランス文学講読	近江屋 志穂	金2	4	3		39
11419	通年	フランス文学講読	田桐 正彦	火3	4	3		40
01786	通年	フランス文学講読	筒井 伸保	木3	4	3		41
01637	通年	フランス文学講読	根本 祐徳	水1	4	3		42
09033	通年	フランス文学講読	保苺 瑞穂	火4	4	3		43
01605	通年	フランス文学講読	横地 卓哉	月3	4	3		44

## <フランス文化・社会部門>

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01722	通年	フランス文化・社会概論	前川 久美子	水3	4	1		45
01705	春	フランス事情	若森 栄樹	木2	2	2		46
01719	秋	フランス事情	中村 公子	木2	2	2		46
01663	通年	フランスの地誌	鈴木 隆	火2	4	3		47
01691	通年	フランスの歴史	藤田 朋久	火3	4	2		48
01787	通年	フランスの思想	若森 栄樹	金3	4	2		49
11412	通年	フランスの美術	前川 久美子	火4	4	2		50
01772	通年	フランスの音楽	松橋 麻利	木4	4	2		51
01764	通年	フランスの演劇	江花 輝昭	木2	4	2		52
01689	通年	フランスの政治	井上 スズ	月2	4	3		53
11979	通年	フランスの経済	千代浦 昌道	火2	4	3		54
01744	通年	フランス文化・社会各論	井上 たか子	木2	4	3		55
01630	通年	フランス文化・社会講読	PH. ヴァネ	火2	4	3		56
01695	通年	フランス文化・社会講読	井上 スズ	月3	4	3		57
01761	通年	フランス文化・社会講読	井上 たか子	木3	4	3		58
01685	通年	フランス文化・社会講読	鈴木 隆	水2	4	3		59
01734	通年	フランス文化・社会講読	藤田 朋久	水1	4	3		60
01621	通年	フランス文化・社会講読	前川 久美子	木1	4	3		61
01601	通年	フランス文化・社会講読	若森 栄樹	金2	4	3		62

# 英語授業科目（2002年度以前入学生用）

## 目次

### 【第2外国語】

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13656	通年	英語Ⅲ	B. K. カートル	月3	2	3		63
13657	通年	英語Ⅲ	C. カーペンター	木3	2	3		64
13658	通年	英語Ⅲ	J. スティベンソン	水3	2	3		65
13659	通年	英語Ⅲ	M. フッド	土1	2	3		66
13661	通年	英語Ⅲ	M. フッド	土2	2	3		67
13663	通年	英語Ⅲ	M. ミルティアダス	月3	2	3		68
13653	通年	英語Ⅲ	石月 正伸	木4	2	3		69
13652	通年	英語Ⅲ	笠原 誠也	土1	2	3		70
13660	通年	英語Ⅲ	笠原 誠也	土2	2	3		71
13662	通年	英語Ⅲ	菊池 武	水3	2	3		72
13664	春	英語Ⅲ	高木 亜希子	水3	2	3		73
13824	秋	英語Ⅲ	高木 亜希子	水3	2	3		73
13654	通年	英語Ⅲ	福田 哲哉	木3	2	3		74
13655	通年	英語Ⅲ	堀 いづみ	木2	2	3		75

	フランス語 I a (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は週2回で、一年間のうちにフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

	フランス語 I b (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

	フランス語 I a (総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>	<b>授業計画</b>		
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うための授業で、週2回あり(同日2コマ続き)、「LL」「会話」と同じ教科書を用います。 未修クラスの教科書は <i>Champion I</i> です。 既修では <i>Panorama I</i> です。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、練習問題、等を通して知識を確実に身につけ、そしてフランス語を書く能力を少しずつつけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。進度や授業方法は担当の先生から最初に指示があります。</p>	1 <i>Champion</i> unité 0		<i>Panorama</i> leçon 4
	2 <i>Champion</i> unité 1		
	3		<i>Panorama</i> leçon 5
	4 <i>Champion</i> unité 2		
	5		<i>Panorama</i> leçon 6
	6 <i>Champion</i> unité 3		
	7		<i>Panorama</i> leçon 7
	8 <i>Champion</i> unité 4		
	9		<i>Panorama</i> leçon 8
	10 <i>Champion</i> Bilan 1		
	11 <i>Champion</i> unité 5.		<i>Panorama</i> leçon 9
	12 (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少差が出ます。)		
<b>テキスト、参考文献</b>	<b>評価方法</b>		
<i>Champion I</i> <i>Panorama I</i>	担当の先生より指示されます。		

	フランス語 I b (総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>	<b>授業計画</b>		
同上。	1 <i>Champion</i> unité 6		<i>Panorama</i> leçon 10
	2		
	3 <i>Champion</i> unité 7		<i>Panorama</i> leçon 11
	4		
	5 <i>Champion</i> unité 8		<i>Panorama</i> leçon 12
	6		
	7 <i>Champion</i> Bilan 2		<i>Panorama</i> leçon 13
	8 <i>Champion</i> unité 9		
	9		<i>Panorama</i> leçon 14
	10 <i>Champion</i> unité 10		
	11		<i>Panorama</i> leçon 15
	12 (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少差が出ます。)		
<b>テキスト、参考文献</b>	<b>評価方法</b>		
同上。	同上。		

06～07 (既習者クラス)	フランス語 I a (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1年では既修クラスのみ履修します。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初に担当教員より説明があります。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

06～07 (既習者クラス)	フランス語 I b (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

	フランス語 I a (会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。先生はフランス人もしくはフランス語のネイティブスピーカーで、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。</p> <p>「LL」、「総合」と連動して同じ教科書を用います。未修クラスの教科書は <i>Champion I</i> です。既修クラスにはこの授業はありません。</p>		<p>進度はフランス語 I (総合) と同じです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Champion I</i>		担当の先生より指示されます。	

	フランス語 I b (会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		<p>進度はフランス語 I (総合) と同じです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

	フランス語 I a (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では LL 教室を用いて、特に発音、綴り字、聞き取りに力を入れます。「総合」や「会話」と同じ教科書も使います。</p> <p>授業の進め方については担当教員から説明があります。</p>		<p>進度はフランス語 I (総合) と同じです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Champion I</i> <i>Panorama I</i></p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

	フランス語 I b (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

	フランス語Ⅱa (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は初級文法を終えた学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

	フランス語Ⅱb (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

	フランス語Ⅱa (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

	フランス語Ⅱb (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

	フランス語Ⅱa (総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>	<b>授業計画</b>		
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ続き）、2組～6組では「会話」と同じ教科書を用います。</p> <p>2組～6組で使用する教科書は <i>Champion I</i>、<i>II</i>です。1組は <i>Panorama II</i>です。</p> <p>授業の進め方については、各担当教員から説明があります。</p>	1 <i>Champion I</i> unité 11		
	<i>Panorama II</i> leçon 1		
	2		
	3 <i>Champion I</i> unité 12		
	4		
	<i>Panorama II</i> leçon 2		
	5 <i>Champion I</i> Bilan 3		
	6 <i>Champion I</i> unité 13		
	<i>Panorama II</i> leçon 3		
	7		
	8 <i>Champion I</i> unité 14		
	<i>Panorama II</i> leçon 4		
9			
10 <i>Champion I</i> unité 15			
<i>Panorama II</i> leçon 5			
11			
12 (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少差が出ます。)			
<b>テキスト、参考文献</b>	<b>評価方法</b>		
<i>Champion I</i> <i>Panorama II</i>	担当の先生より指示されます。		

	フランス語Ⅱb (総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>	<b>授業計画</b>		
<p>同上。</p>	1 <i>Champion I</i> unité 16		
	<i>Panorama II</i> leçon 6		
	2		
	3 <i>Champion I</i> Bilan 4		
	4 <i>Champion II</i> unité 1		
	<i>Panorama II</i> leçon 7		
	5		
	6 <i>Champion II</i> unité 2		
	7		
	<i>Panorama II</i> leçon 8		
	8 <i>Champion II</i> unité 3		
	9		
10 <i>Champion II</i> Bilan 1			
<i>Panorama II</i> leçon 9			
11 <i>Champion II</i> unité 4			
12 (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差がでます。)			
<b>テキスト、参考文献</b>	<b>評価方法</b>		
<i>Champion I, II</i> <i>Panorama II</i>	同上。		

06～07 (既習クラス)	フランス語 II a (TP)	担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;授業目的&gt; TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用して、問題練習と個人作業を行います。この授業は2年1組のみ履修します。</p> <p>&lt;授業概要&gt; 各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みますが、教材や授業の進め方等については担当教員から最初に説明があります。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当教員より指示されます。		担当教員より指示されます。	

06～07 (既習者クラス)	フランス語 II b (TP)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

	フランス語Ⅱa (会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業はフランス語の運用能力をのばすことを目的としています。担当教員はフランス人もしくはフランス語のネイティブスピーカーで、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。</p> <p>「LL」「会話」と同じ教科書を用います。未修クラスの教科書は <i>Champion I, II</i> です。なお、既修（2年1組）の再履修は2年未修クラスの会話を取ってください。</p>		<p>進度はフランス語Ⅱ(総合)と同じです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Champion I, II</i> <i>Panorama II</i></p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

	フランス語Ⅱb (会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>進度はフランス語Ⅱ(総合)と同じです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

06～07 03～05	フランス語 II a (文章表現) フランス語 II a (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;授業目的&gt; この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。</p> <p>&lt;授業概要&gt; 基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。</p> <p>(注意) 「フランス語 II a, b (LL)」の再履修は、2年生に今年度から導入されたこの科目(「文表表現」)を履修してください。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
		担当の先生より指示されます。	

06～07 03～05	フランス語 II b (文章表現) フランス語 II b (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上			
テキスト、参考文献		評価方法	
		同上	

	総合フランス語 a	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Panorama II</i> à partir de la leçon 10 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		1 <i>Champion</i> unité 5	
		<i>Panorama</i> leçon 10	
		2	
		3	
		4 <i>Champion</i> unité 6	
		5	
		<i>Panorama</i> leçon 11	
		6	
		7 <i>Champion</i> unité 7	
		8	
		9	
		<i>Panorama</i> leçon 12	
		10 <i>Champion</i> unité 8	
11			
12			
Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U7( <i>Champion</i> )			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et CD.		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

	総合フランス語 b	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>		1 <i>Champion</i> unité 9	
		<i>Panorama</i> leçon 13	
		2	
		3	
		4 <i>Champion</i> unité 10	
		5	
		<i>Panorama</i> leçon 14	
		6	
		7 <i>Champion</i> unité 11	
		8	
		9	
		<i>Panorama</i> leçon 15	
		10 <i>Champion</i> unité 12	
11			
12			
Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U10 ou 11( <i>Champion</i> )			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et CD.		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

	フランス語文章表現法 a	担当者	C. Vallienne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;Objectifs &gt;</p> <p>Mise en pratique des acquis</p> <p>Exercices</p> <p>Développement des stratégies pour l'expression écrite</p> <p>&lt;Déroulement des classes&gt;</p> <p>Dans ce cours, nous proposerons aux étudiants des thèmes variés à travers différents supports écrits (article de journal, extrait d'œuvres littéraire, publicités...) et leur travail consistera à se familiariser et à réagir aux différents types de texte par écrit.</p> <p>Le document du jour sera accompagné d'une documentation préparée par le professeur pour aider les étudiants à développer leur stratégie en termes de compréhension écrite. Ils seront ensuite guidés dans leurs productions avec différents exercices.</p>		<p>Première partie</p> <p>Tour de table pour vérifier les mots et expressions disponibles sur le sujet.</p> <p>Présentation et explication des points de grammaires difficiles et du vocabulaire nouveau.</p> <p>Lectures du document (plusieurs fois pendant la séance)</p> <p>Questions de compréhension</p> <p>Deuxième partie</p> <p>Vérification (par deux, les étudiants échangent leurs idées et vérifient leurs réponses)</p> <p>Correction.</p> <p>Un travail écrit sera demandé pour réemployer les structures importantes des textes</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

	フランス語文章表現法 b	担当者	C. Vallienne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. ペリセロ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ce cours a pour but de vous apprendre à organiser votre expression écrite dans deux situations: la correspondance officielle et l'écriture d'un court essai. Ce que vous apprendrez pourra être utilisé pour passer les épreuves d'expression écrite du DELF A2 et B1. Je commencerai le cours par des explications, puis je vous donnerai un exemple et enfin vous pratiquerez seul ou en groupe. A la fin du cours, je vous donnerai un devoir qui sera à rendre pour le cours suivant.</p>		<p>La correspondance officielle. (Utile pour le DELF A2)</p> <p>Cours 1 : présentation du cours et pratique de l'écrit.</p> <p>Cours 2 à 6: organisation et écriture d'une lettre de demande d'informations</p> <p>Cours 7 à 12 : organisation et écriture d'une lettre de réclamation.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Aucun manuel ne sera utilisé mais je donnerai des photocopies : sujets, exemple, pratiques et méthodologies pour la correspondance officielle et l'écriture d'un essai.		L'évaluation se fera à partir des présences, des devoirs et de deux examens (en juillet et janvier.)	

	フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. ペリセロ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ce cours a pour but de vous apprendre à organiser votre expression écrite dans deux situations : la correspondance officielle et l'écriture d'un court essai. Ce que vous apprendrez pourra être utilisé pour passer les épreuves d'expression écrite du DELF A2 et B1. Je commencerai le cours par des explications, puis je vous donnerai un exemple et enfin vous pratiquerez seul ou en groupe. A la fin du cours, je vous donnerai un devoir qui sera à rendre pour le cours suivant.</p>		<p>Ecriture d'un court essai. (Utile pour le DELF B1)</p> <p>Cours 1 : présentation du cours et pratique de l'écrit.</p> <p>Cours 2 et 3 : compréhension du sujet et recherche du plan.</p> <p>Cours 4 et 5 : recherche des idées.</p> <p>Cours 6 et 7 : organisation des idées.</p> <p>Cours 8 : écrire une introduction et une conclusion.</p> <p>Cours 9 et 10 : expression des idées (donner son avis, exprimer une nuance, etc) et écriture d'un paragraphe.</p> <p>Cours 11 et 12 : écriture complète d'un court essai.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Aucun manuel ne sera utilisé mais je donnerai des photocopies : sujets, exemple, pratiques et méthodologies pour la correspondance officielle et l'écriture d'un essai.		L'évaluation se fera à partir des présences, des devoirs et de deux examens (en juillet et janvier.)	

	フランス語文章表現法a	担当者	F. ルーセル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Dans ce cours, nous utiliserons des « documents authentiques » : par exemple des articles de presse, des publicités, des prospectus, des pages web...</p> <p>Avec ces documents, nous ferons d'abord des exercices pour améliorer vos compétences en compréhension écrite, en grammaire et en vocabulaire.</p> <p>Enfin vous produirez à votre tour des documents en imitant les documents étudiés.</p>		<p>1～3 恋愛の表現 : expression des émotions</p> <p>4～6 地下鉄でパリ発見 ! : rencontre en R.E.R.</p> <p>7～9 有名で、誰でも使っている : BIC, 仏企業</p> <p>10～12 カマンベルから見たフランスグルメ : le camembert</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>《Je lis, tu lis... et j'écis》 『資料で読み解くフランス語』第三書房 ISBN 4-8086.2105-3</p>		<p>Participation active à la classe : 40%</p> <p>Devoirs : 30%</p> <p>Examen : 30%</p>	

	フランス語文章表現法 b	担当者	F. ルーセル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(au deuxième semestre, nous continuerons le même travail qu'au premier semestre)</p> <p>Dans ce cours, nous utiliserons des « documents authentiques » : par exemple des articles de presse, des publicités, des prospectus, des pages web...</p> <p>Avec ces documents, nous ferons d'abord des exercices pour améliorer vos compétences en compréhension écrite, en grammaire et en vocabulaire.</p> <p>Enfin vous produirez à votre tour des documents en imitant les documents étudiés.</p>		<p>1～3 フランス映画の復活 : le Festival de Cannes</p> <p>4～5 ショコラ製造業者 : Gérard MULOT, chocolatier à Paris</p> <p>6～8 ヨーロッパの中のフランス : l'euro, notre monnaie</p> <p>9～10 インターネット &amp; cyber book : lire en ligne</p> <p>11～12 Agnès b.: _Si j'étais..._</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>《Je lis, tu lis... et j'écis》 『資料で読み解くフランス語』第三書房 ISBN 4-8086.2105-3</p>		<p>Participation active à la classe : 40%</p> <p>Devoirs : 30%</p> <p>Examen : 30%</p>	

	フランス語文章表現法 a	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p><b>Contenu :</b> Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

	フランス語文章表現法 b	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p><b>Contenu :</b> Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

	フランス語文章表現法 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>On n'a jamais autant écrit depuis l'arrivée des téléphones portables et de l'internet. L'écriture est à la fois un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses propres idées et sentiments. Dans ce but, elle fait appel à des règles de logique que nous essaierons de découvrir en classe : exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. Travail sur le plan. Comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe. <u>Pas de traduction.</u></p> <p>Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet est libre. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p>		<p>1. le 1<sup>er</sup> semestre consiste en l'étude des articulations logiques.</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5 Remise du devoir (1<sup>ère</sup> fois)</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8 Remise du devoir (2<sup>e</sup> fois)</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11 Remise du devoir (3<sup>e</sup> fois)</p> <p>12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Nouvelle grammaire du français</i> (Cours de civilisation française de la Sorbonne), Hachette.</p>		<p>Le grand devoir semestriel est noté.</p>	

	フランス語文章表現法 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Suite du premier semestre, en particulier étude sur les questions de plan.</p>		<p>1. le 2<sup>er</sup> semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5 Remise du devoir (1<sup>ère</sup> fois)</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8 Remise du devoir (2<sup>e</sup> fois)</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11 Remise du devoir (3<sup>e</sup> fois)</p> <p>12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Rédiger pour convaincre</i>, Laurent JP, Duculot.</p>		<p>Le grand devoir semestriel est noté.</p>	

	和文仏訳 a	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>インターネットの時代に、もっとも必要とされる語学力は何でしょうか。それは第一に読む力、そして書く力です。会話では、目の前にいる人としかコミュニケーションすることができませんが、読む力があれば、「ここにいない人」と「好きなきに」コミュニケーションすることができます。「ここにいない人」には、地理的に遠い人だけでなく、絶対に会う機会が得られない人（すなわち死んだ人たち）も含まれます。受信できるメッセージの質と量において、読む力の開発は、話す力の開発よりも圧倒的にコストパフォーマンスが高いのです。さらに、読む力と並行して書く力を身につければ（実は書く力も読む力がベースです）、全世界の人を対象に発信することもできます。</p> <p>仏検準1級の筆記試験には、毎年かなり長文の和文仏訳問題が出題されますが、この授業では、仏検準1級合格を目指すような人たちを想定して、日本語をフランス語に置き換える作業を通じ、フランス語の統辞法、文章構成法のノウハウを身につけることを学びます。対象者は中級以上です。</p> <p>課題文は、日仏の時事的な文章を主に採用する予定です。</p> <p>皆さんは、先生に作文を添削してもらったとき、どうしてそのように直されたのか、よく理解できなかった経験はありませんか。この授業では、PC教室を使用し、教室の機能を利用してリアルタイムに問題点を指摘し、質疑応答を通じて、そのような疑問を解消します。</p> <p>授業の性質上、受講者が多すぎると効果が期待できませんので、受講制限をするかもしれません。最初の授業に必ず出席すること。</p>		<p>毎回の授業で、次回の課題文をファイルで配布。仏訳文をあらかじめ用意してくることが受講の条件となる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
課題文は授業時にファイルで配布。		平常点。定期試験は行わないので、出席率がよくなければ、単位取得は望めません。	

	和文仏訳 b	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
課題文は授業時にファイルで配布。		平常点。定期試験は行わないので、出席率がよくなければ、単位取得は望めません。	

	和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。</p> <p>春学期は簡単な単文（主語＋動詞の文）から始めて、複文（様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文）の練習までを行なう。授業は下記の教科書の練習問題を扱う。ある程度の予習が必要である。</p> <p>人数制限をする場合があるので、履修を望む学生はかならず1回目の授業に出席すること。</p> <p>和仏辞典についての注意：和仏辞典（電子版を含む）の付録に付いている和仏語彙集では足りない。白水社の『現代和仏小辞典』か、旺文社の『プチ・ロワイヤル和仏辞典』を手に入れること（現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい）。</p>		<p>1回目：授業の説明。人数過多の場合は簡単なテストにより制限を行なう。</p> <p>2回目以降教科書に沿って授業を進める。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：中村栄子『新フランス語作文実習Ⅰ（改訂版）』駿河台出版社		平常点（出席・授業への参加度）と学期末試験	

	和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、春学期の知識を応用して、新聞記事や評論文のような、知的内容のある文章の和訳練習を行なう。予め自分の試訳を用意するための予習が必要となる。</p> <p>春学期を履修していることが望ましい。春学期を履修していない学生は、複文（上記参照）の和訳程度の知識が必要で、それがなければ授業には付いていかれない。</p> <p>和仏辞典は春学期以上に必要である。</p>		教科書に沿って授業を進める。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：大賀正喜『フランス語で書いてみよう』第三書房		同上	

	フランス語会話 a	担当者	B. P. レウルス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「実際にフランス人と喋ってみよう」をテーマにフランス語を正確に話せるようにします。</p> <p>CALL 教室での授業、フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていく。Website, chansons, documentaires, films, etc.から今日のフランスも学ぶ。</p> <p>L'objectif de ce cours est la communication en français. Au laboratoire de langue, les activités de compréhension et d'expression seront variées : dialogues, documents, chansons, extraits de films et de publicités. Ensemble, découvrons la France actuelle : art de vivre, régions et société.</p>		<p>1・3 クラスの仲間を知るために：専攻、アルバイト、好きなことを言う</p> <p>4・5 映画の話：映画を選ぶ、カンヌ映画祭</p> <p>6・8 パリの街に住む：部屋を探す、家に友人を呼ぶ</p> <p>9・10 フランス食生活：メニューを読む、注文をする</p> <p>11・12 バカンスの話：計画、おみやげ、フランスの地方</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：「Picoti, Picota <b>2</b>」 ISBN 4-411-00923-4 「ピコティ・ピコタ <b>2</b>」 駿河台出版社</p> <p>参考文献：『もっと知りたいフランス』 齊藤・レウルス 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

	フランス語会話 b	担当者	B. P.レウルス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Au second semestre, nous continuerons et approfondirons nos activités autour de nouveaux thèmes. Ceux-ci permettent une réelle communication : compréhension et expression. Nous aborderons également des thèmes grammaticaux nouveaux : le conditionnel et l'expression de l'hypothèse, le subjonctif et l'expression des sentiments.</p>		<p>1・2 デパートやスーパーで買い物をする</p> <p>3・5好きなもの、好きなことの言い方</p> <p>6・7 美容室で：電話で予約、髪型、ネイルサロン</p> <p>8・10 ショコラから見たフランス・グルメ</p> <p>11・12 フランス生活暦：クリスマス</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：「Picoti, Picota <b>2</b>」 ISBN 4-411-00923-4 「ピコティ・ピコタ <b>2</b>」 駿河台出版社</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

	フランス語会話 a	担当者	C. Vallienne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;Objectifs &gt; Mise en pratique des acquis Pratique de la conversation courante Débat autour de thèmes choisis Développement des stratégies pour la compréhension orale et écrite</p> <p>&lt;Déroulement des classes&gt;</p> <p>Chaque semaine un thème sera proposé à travers différents supports (article de journal, documents vidéo et audio). Le travail sera, dans un premier temps, basé sur la compréhension orale et/ou écrite. Divers types de documents audio seront présentés (interview, micro-trottoir, dialogue, etc.). Le document du jour sera accompagné d'une documentation préparée par le professeur pour aider les étudiants à développer leur stratégie en termes de compréhension orale. Des articles de journaux seront également étudiés, accompagnés eux aussi de questions de compréhension. Chaque type de documents étudiés en classe donnera lieu à des débats pour la production orale.</p>		<p><u>Première partie</u></p> <p>Tour de table pour vérifier les mots et expressions disponibles sur le sujet. Présentation et explication du vocabulaire nouveau.</p> <p>Ecoutes ou lectures du document (plusieurs fois pendant la séance)</p> <p>Questions de compréhension</p> <p><u>Deuxième partie</u></p> <p>Vérification (par deux, les étudiants échangent leurs idées et vérifient leurs réponses)</p> <p>Correction.</p> <p>Débat en classe : Questions de discussion proposées par le professeur et à compléter.</p> <p>Discussion par groupes de trois étudiants, avec un étudiant responsable par groupe.</p> <p>Les responsables débattent devant la classe entière.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

	フランス語会話 b	担当者	C. Vallienne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	フランス語会話 a	担当者	L.フォンテーヌ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Ce cours met l'accent sur la compréhension auditive et la communication orale. A chaque cours, nous écoutons donc de petites conversations enregistrées sur cassette. Puis nous faisons des exercices qui nous aident à comprendre ces conversations. Enfin, les étudiants préparent en petits groupes des conversations sur le même thème que les conversations entendues et parlent à leur tour.		Au début, nous allons écouter des conversations toutes simples et préparer des échanges aussi simples (avec: <u>Exercices d'oral en contexte</u> , niveau débutants, Hachette FLE ). Après, à partir du quatrième cours, nous passerons à un niveau un peu plus avancé (avec: <u>Exercices d'oral en contexte</u> , niveau intermédiaire, Hachette FLE).	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Des photocopies des livres mentionnés seront distribuées.		L'évaluation sera continue et basée sur la participation aux cours. Il n'y aura pas d'examen écrit final.	

	フランス語会話 b	担当者	L.フォンテーヌ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Ce cours met l'accent sur la compréhension auditive et la communication orale. A chaque cours, nous écoutons donc de petites conversations enregistrées sur cassette. Puis nous faisons des exercices qui nous aident à comprendre ces conversations. Enfin, les étudiants préparent en petits groupes des conversations sur le même thème que les conversations entendues et parlent à leur tour.		Continuation avec des photocopies du livre intermédiaire et les enregistrements correspondants.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Des photocopies des livres mentionnés seront distribuées.		L'évaluation sera continue et basée sur la participation aux cours. Il n'y aura pas d'examen écrit final.	

	フランス語会話 a	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p>		<p><b>Contenu :</b> Nous travaillerons à partir de matériaux divers (articles de journal, chansons, publicités) qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés. Comme il n'est pas facile de prendre la parole en français, notre séance de conversation commencera généralement par un petit tour de table afin d'échanger les nouvelles de la semaine passée. Cette première partie du cours est une sorte d'échauffement indispensable pour perdre, en l'espace de 90 minutes, sa langue japonaise. Voilà, on va s'efforcer d'oublier le japonais pour laisser place aux mots français.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Venir si possible avec un dictionnaire français.		Un exposé sur un sujet de son choix à faire vers la fin du premier semestre ou du deuxième semestre (pour les étudiants qui s'inscrivent aux deux semestres). Contrôle continu. Présence régulière au cours souhaitée.	

	フランス語会話 b	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p>		<p><b>Contenu :</b> Nous travaillerons à partir de matériaux divers (articles de journal, chansons, publicités) qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés. Comme il n'est pas facile de prendre la parole en français, notre séance de conversation commencera généralement par un petit tour de table afin d'échanger les nouvelles de la semaine passée. Cette première partie du cours est une sorte d'échauffement indispensable pour perdre, en l'espace de 90 minutes, sa langue japonaise. Voilà, on va s'efforcer d'oublier le japonais pour laisser place aux mots français.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Venir si possible avec un dictionnaire français.		Un exposé sur un sujet de son choix à faire vers la fin de l'année universitaire. Contrôle continu. Présence régulière au cours souhaitée.	

	フランス語会話 a	担当者	S. ジュンタ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業登録最終日の後に、練習問題の追加コピーを配布します。このクラスは FLE メソッドを取り入れ、授業開始時に配られる練習問題や録音された会話練習などを活用し、フランス語の理解力と表現方法をより高めていきます。</p> <p>授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げてフランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、授業内容に沿ったビデオ、DVD も使用しフランスやフランス人の生活にも触れ、パリやプロヴァンス地方なども紹介していききたいと思います。インターネットも使ってフランスの旅を楽しみましょう。</p> <p>そして特に重点をおきたいのは、現在フランスで使われている生きたフランス語を学生の皆さんにマスターしてもらいたいことです。フランス語を話すのは簡単です。しかし生きた言葉を使いこなすにはよく聞き取る訓練が大切です。多くのフランス語を聞き会話を楽しみながら、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきましょう。仏検 2, 3 級の準備も兼ねます。必要に応じ日本語で説明します。</p> <p>♪ 年間を通し、授業内容に沿ったビデオ、DVD、資料等を活用し授業を進めます。</p> <p>春 1 課から 5 課 授業登録最終日の後に、練習問題の追加コピーを配布します。</p>		<p>授業開始日に年間を通した詳しい授業内容を配ります。</p> <p>Thèmes présentés :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* La découverte de Paris : monuments, musées, lieux célèbres...</li> <li>* Les rencontres : se présenter, parler de soi, de sa famille...</li> <li>* La vie profession : les professions, le lieu de travail...</li> <li>* Le lieu de résidence : le logement, la location...</li> <li>* L'heure : le rendez-vous, les formules de politesse...</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Aller Simple Communication (CD付き) 早美出版社		授業への参加態度による評価 (定期試験なし)	

	フランス語会話 b	担当者	S. ジュンタ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業登録最終日の後に、練習問題の追加コピーを配布します。このクラスは FLE メソッドを取り入れ、授業開始時に配られる練習問題や録音された会話練習などを活用し、フランス語の理解力と表現方法をより高めていきます。</p> <p>授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げてフランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、授業内容に沿ったビデオ、DVD も使用しフランスやフランス人の生活にも触れ、パリやプロヴァンス地方なども紹介していききたいと思います。インターネットも使ってフランスの旅を楽しみましょう。</p> <p>そして特に重点をおきたいのは、現在フランスで使われている生きたフランス語を学生の皆さんにマスターしてもらいたいことです。フランス語を話すのは簡単です。しかし生きた言葉を使いこなすにはよく聞き取る訓練が大切です。多くのフランス語を聞き会話を楽しみながら、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきましょう。仏検 2, 3 級の準備も兼ねます。必要に応じ日本語で説明します。</p> <p>♪ 年間を通し、授業内容に沿ったビデオ、DVD、資料等を活用し授業を進めます。</p> <p>秋 6 課から 10 課 授業登録最終日の後に、練習問題の追加コピーを配布します。</p>		<p>授業開始日に年間を通した詳しい授業内容を配ります。</p> <p>Thèmes présentés :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* La visite de la capitale : les directions, demander son chemin...</li> <li>* Le restaurant - Le café : choisir, conseiller, commander, ...</li> <li>* Les transports : voyager, visiter la France...</li> <li>* Le temps : la météo / le métro, les transports en commun...</li> <li>* Les achats : acheter des vêtements, des cadeaux...</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>注意：秋の授業に登録する学生も下記の教科書を必ず準備してください。</p> <p>Aller Simple Communication (CD付き) 早美出版社</p>		授業への参加態度による評価 (定期試験なし)	

	時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。</li> <li>2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。</li> <li>3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。</li> </ol> <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組の録画を見て、その大筋をつかむ練習と、ききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの新聞記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2007年のニュースを予測することはできませんので、以下に2006年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. CPE への抗議行動</li> <li>2. 東洋アルミ、フランスの工場閉鎖を撤回</li> <li>3. 今年のボルドーワインの出来は</li> <li>4. ジダン選手引退</li> <li>5. 5月1日は極右の日</li> <li>6. アルストム社、アスベスト裁判</li> <li>7. ミタル社、アルセロール社への TOB</li> <li>8. カヌ映画祭</li> <li>9. モナコ大公に2番目の隠し子</li> <li>10. サッカー・ワールドカップ</li> <li>11. 生分解可能なプラスチック</li> <li>12. 千と千尋の神隠し</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはありません。辞書を必ず持参のこと。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。ABC等の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

	時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。</li> <li>2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。</li> <li>3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。</li> </ol> <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組の録画を見て、その大筋をつかむ練習と、ききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの新聞記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2007年のニュースを予測することはできませんので、以下に2006年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エアバス 380、引渡しが遅れる</li> <li>2. パリでモーターショー開かれる</li> <li>3. 三菱重工、原子力産業仏大手アレバと提携へ</li> <li>4. モンサンミッシェル、砂の除去作業始まる</li> <li>5. 地中海のクロマグロ</li> <li>6. 世界一高い橋、ミヨウ高架橋</li> <li>7. 大統領選、社会党候補ロワイヤル氏</li> <li>8. フランス、再生可能なエネルギーで出遅れ</li> <li>9. V 母子感染率、低下</li> <li>10. France 24 放送始まる</li> <li>11. EU27 カ国へ</li> <li>12. アステリクスとオベリクス</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはありません。辞書を必ず持参のこと。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。ABC等の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

	時事フランス語 a	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;授業目的&gt; フランス語の聴解 (=Compréhension orale)。様々なタイプのフランス語聴解練習を通して、必要な情報を聞き取るために必要な「耳」の訓練を行う。</p> <p>&lt;授業概要&gt; フランス語を聞き、内容に関する質問に答えていく。また「聞く」ために必要になる音の聞き分けを助けるために、発音練習やディクテもあわせて行う。 (仏検準2級、2級取得を目指すレベル。)</p> <p>この授業はフランスに長期留学/長期滞在をしていない人を対象に行います。フランスに長期滞在していた人はご遠慮ください。 (一ヶ月程度の語学研修は可。)</p>		<p>扱う録音例 (順不同)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電話の自動案内・留守番電話</li> <li>2. 駅・ホテル・レストラン</li> <li>3. 市場・店内での買い物</li> <li>4. 天気予報・各地の気候</li> <li>5. 病院・緊急時</li> <li>6. 番組案内・映画案内・コマーシャル</li> <li>7. 観光案内・旅行者</li> <li>8. 時事問題のレジュメの聞き取り</li> <li>9. ニュース</li> <li>10. その他のテレビ・ラジオ番組</li> <li>11. 映画の一部抜粋</li> <li>12. 物語・歌等の CD から</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント。		出席、授業参加態度、課題、授業でのテスト、定期試験。	

	時事フランス語 b	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		<p>扱う録音例 (順不同)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電話の自動案内・留守番電話</li> <li>2. 駅・ホテル・レストラン</li> <li>3. 市場・店内での買い物</li> <li>4. 天気予報・各地の気候</li> <li>5. 病院・緊急時</li> <li>6. 番組案内・映画案内・コマーシャル</li> <li>7. 観光案内・旅行者</li> <li>8. 時事問題のレジュメの聞き取り</li> <li>9. ニュース</li> <li>10. その他のテレビ・ラジオ番組</li> <li>11. 映画の一部抜粋</li> <li>12. 物語・歌の CD から抜粋</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント。		出席、授業参加態度、課題、授業でのテスト、定期試験。	

	商業フランス語 a	担当者	Ch.パジェス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Découvrez l'entreprise</li> <li>2. Rechercher un emploi</li> <li>3. Les relations dans le travail</li> <li>4. Prendre contact par téléphone</li> <li>5. Organiser son emploi du temps</li> <li>6. Organiser un déplacement</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		出席、授業への参加態度及びテスト	

	商業フランス語 b	担当者	Ch.パジェス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. Marché et résultats de l'entreprise</li> <li>8. Fabrication et mode d'emploi</li> <li>9. Passer commande</li> <li>10. Promotion et vente</li> <li>11. A propos de règlements</li> <li>12. Importer et exporter</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		出席、授業への参加態度及びテスト	

	商業フランス語 a	担当者	大井 正博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、特に商業面にこだわらずにコミュニケーションの手段としてのフランス語についてさまざまな角度から勉強してゆく。通信文の場合、相手によって（たとえば親しい間柄と取引先の場合）書き方にどのような違いがあるのか。新聞・雑誌の広告では、ターゲット層により当然異なってくる言い回しに注目したい。若者のメールで多用されている各種略語、さらにはマスコミでさかんに使われていながらも、日本の仏和辞典ではカバーされていない新しい表現についても見てゆくつもりである。テキストについては必要に応じてコピーを配る予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 簡単なメモの書き方</li> <li>2 正式な手紙</li> <li>3 ニュースキャスターの話し方</li> <li>4 クイズ番組の司会者の話し方</li> <li>5 知的な広告</li> <li>6 大衆向けの広告</li> <li>7 略語の世界</li> <li>8 代表的な略語表現</li> <li>9 メールでの略語</li> <li>10 新語のいろいろ</li> <li>11 逆さ言葉のいろいろ</li> <li>12 言語の位相について</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
		受講条件：なし 評価方法：定期試験	

	商業フランス語 b	担当者	大井 正博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、特に商業面にこだわらずにコミュニケーションの手段としてのフランス語についてさまざまな角度から勉強してゆく。電話で話をする際に、相手によって（たとえば親しい間柄と取引先の場合）どのような違いがあるのか。大臣や弁護士と話すときの敬称はどうなるのかとか、フランス人がよく使う各種表現が、実際にはどんなニュアンスの違いを持っているのかを検討する。テキストについては必要に応じてコピーを配る予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1&amp;2 電話での話し方</li> <li>3&amp;4 改まった言い回し</li> <li>5&amp;6 各種敬称・敬語の使い方</li> <li>7&amp;8 一定の決まり文句の数々</li> <li>9&amp;10 思いやりの表現</li> <li>11&amp;12 日本人的発想とフランス人的発想</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
		受講条件：なし 評価方法：定期試験	

	フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、現代フランス語の仕組みを解明する。今年度は、動詞を中心に講義する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる時制について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、各時制の本質的価値、意味効果について考えていく。</p> <p><b>その他：</b>受講者のフランス語力は問わないが、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は第1回目の授業に出席すること。</p> <p>なお、来年度は動詞以外を扱う：フランス語の音声体系。なぜ、初出の名詞にも定冠詞が付くことがあるのか。不定冠詞を用いた総称文は定冠詞を用いた総称文とどう異なるのか。否定文と冠詞の関係。なぜ、非人称構文が存在するのか。なぜ、受動態という形式が存在するのか。使役構文と放任構文の仕組み。そもそも中性代名詞とは何か。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語の特徴</li> <li>・時制体系概論</li> <li>・直説法現在形の特徴</li> <li>・直説法現在形の本質的価値</li> <li>・直説法半過去形の特徴</li> <li>・直説法半過去形の本質的価値</li> <li>・直説法複合過去形と大過去形の本質的価値</li> <li>・直説法単純過去形と前過去形の本質的価値</li> <li>・フランス語の過去時制比較</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回プリントを配付する。		主に、論述形式の試験により評価する。 その他、詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。	

	フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直説法単純未来形の特徴、現在形との対比</li> <li>・直説法単純未来形と近接未来形の本質的価値</li> <li>・条件法の特徴、本質的価値</li> <li>・仮定文と時制</li> <li>・時制の一致</li> <li>・接続法の特徴、本質的価値</li> <li>・直説法と接続法との対比</li> <li>・分詞法</li> <li>・時制と文体的効果</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

	フランス文学概論 a	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、主として19・20世紀のフランス文学の紹介をします。ただし単なる文学史ではなく、画像と文学との関係に的を絞ります。19世紀のフランスは視覚による複製芸術の時代でした。つまり原画だけしかない油絵などでなく、版画や写真など安価かつ大量に画像が供給され、それが一般人だけでなく作家の世界観をも決めるようになって来たのです。バルザックは美しい手彩色のリトグラフを好みましたし、ゾラは万国博覧会以来多量に紹介されてジャポニスムを巻き起こした浮世絵版画を、プルーストは凝った演出をした肖像・スナップ写真を好み、創作の源泉にしていました。ただしまだ良質の聴覚による複製芸術はありませんでした。このような観点から近代文学の変遷を辿ってゆきます。</p> <p>また文学作品を原作とした映画やオペラを紹介し、映像からの理解もしてもらいます。受講者は歴史的な知識が充分でないと思われませんが、「フランス文化社会概論」の歴史の授業で入門をしますのであわせて受講してください。短編を読んでのレポートを各学期2回、毎週の小作文・小テストとあわせて評価します。資料の配付やレポートの提出は講義支援システムを利用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介</li> <li>2 「魔性の女」の系譜</li> <li>3 言葉の洪水</li> <li>4 革命を準備したオペラ</li> <li>5～6 地方色とエグジスム</li> <li>7～8 フランスに生まれたミラノ人</li> <li>9～10 カテドラルの時代</li> <li>11～12 「家族」の発見</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版 江花輝昭他著『フランス文学史』ミネルヴァ書房		評価方法：レポートおよび平常点による	

	フランス文学概論 b	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1～3 ステンド・グラスと三色旗</li> <li>4～6 旅への誘い</li> <li>7～9 パサージュからデパートへ</li> <li>10～12 新芸術と美しい時代</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
同上		評価方法：同上	

	フランス語史 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：フランス語の歴史を概説しながら、現代フランス語において一見不思議に見える様々な現象を解明していく。必要に応じてラテン語についても触れる。</p> <p>その他：受講者のフランス語力は問わないが、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者はできるだけ第1回目の授業に出席すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、言語は生まれ、死んでいくのか。</li> <li>・なぜ、70を <b>soixante-dix</b> と言うのか。</li> <li>・なぜ、名詞には性があるのか。</li> <li>・なぜ、<b>Charles</b> (男) は1人でも <b>s</b> が付くのか。 <b>François</b> は <b>Français</b> なのか。</li> <li>・なぜ、女性なのに、<b>grande-mère</b> ではなく、<b>grand-mère</b> なのか。なぜ、女性の友人なのに、<b>mon amie</b> なのか。</li> <li>・なぜ、「春」だけ <b>au printemps</b> なのか。</li> <li>・なぜ、前置詞 <b>à</b> には日本語の「に」「へ」「から」と多岐にわたる用法があるのか。</li> <li>・なぜ、<b>aller</b> の活用形は語幹さえ替わるのか。</li> <li>・なぜ、否定には <b>ne</b> と <b>pas</b> という2つの要素が必要なのか。否定文中の名詞の前に付く <b>de</b> は何か。虚辞の <b>ne</b> とは何か。なぜ、否定文で用いられる <b>rien</b> と <b>personne</b> は語順が違うのか。</li> <li>・なぜ、<b>beau</b> には <b>bel</b> という男性第二形があるのか。</li> <li>・なぜ、<b>des maisons blanches</b> と言うのに、<b>de petites maisons</b> になるのか。</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配付する。		主に、論述形式の試験により評価する。 その他、詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。	

	フランス語史 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

	フランス文学史 a	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス文学史」という科目名、高等学校での「世界史」「日本史」の経験から、人名・作品名・年号等の暗記を連想されるかもしれません。これらの知識はもちろん役に立つこともありますし、フランスで教育を受けた人々と付き合っていく上である程度必要になることもあるでしょう。しかし、これは必ずしも楽しい作業ではありませんし、文学嫌いになりかねません。この講義では、知識として持っていた方がいいことがらの紹介はしますが、映像等も用いて、できる限り作品そのものにふれることにより、「フランス文学」にしたしんでいただくとともに、「文学」について考えていただきたいと思います。</p>		<p>まず最初に「文学」とは何かを考慮いただき、かりそめの定義をします。</p> <p>ついで「フランス語」・「フランス文学」の揺籃期に触れた後、「物語」に焦点を当て、やがて「小説」と呼ばれる形式が成立し、完成していく過程をみていきます。</p> <p>春学期では「小説」の一応の完成期と考えられる19世紀半ばまでを扱う予定ですが、授業の進度によっては、その後の「小説」という形式の変遷にも触れます。</p> <p>第1回目の授業で、授業でとりあげる作品、参考文献の紹介等を行いますので、受講予定者は必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で紹介。		平常点（授業中にアンケートに答える形で文章を書き、提出していただきます。） レポート	

	フランス文学史 b	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期参照。		<p>始めに、19世紀後半以降から現代に至るまでの「小説」という形式の変容をみます。</p> <p>その後は「演劇」に焦点を当て、芝居の楽しさを知っていただきたいと思います。</p> <p>第1回目の授業で春学期のまとめと、レポートの講評、秋学期のより詳しい予定の説明をおこないます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期参照。		春学期参照。	

	フランス語学各論 a	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1 全般的なオリエンテーション。 2－4 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能。 5－7 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能。 8－10 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能。 11 冠詞の体系（4）：無冠詞の機能。 12 まとめ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

	フランス語学各論 b	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1－3 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト。 4－6 動詞の体系（2）：半過去。 7－9 動詞の体系（3）：代名動詞。 10－11 関係節の諸相：制限的關係節、同格的關係節、述語的關係節。 12 まとめ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

	フランス文学各論 a	担当者	保莉 瑞穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本年度の文学各論では、ミラン・クンデラの「失われた手紙」を取り上げます。クンデラは国際的に名声を博しているチェコ出身の小説家で、現在はフランスに在住して活躍しています。日本でも数々の翻訳を通して、多くの読者を得ています。あたらしい現代の文学に関心がある学生諸君にクンデラの面白さを味わってみたいと思います。</p>		<p>毎週、担当者を決めて、テキストの訳読をしてもらいます。そのあとで必要な文法事項の説明や、クンデラの文学の新しさ、独自さについていっしょに考えてみたいと思います。受講生の数を制限しますので、希望者は必ず第一回の授業に出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「失われた手紙」(白水社)		原則としてレポートに平常点、出席状況を加味して評価します。	

	フランス文学各論 b	担当者	保莉 瑞穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期の項目を参照。		春学期の項目を参照。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期の項目を参照。		春学期の項目を参照。	

	フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。</p> <p><b>講義概要</b>：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体（物語、エッセイ、日記、新聞、論説文等々）の1～5行程度の文章で丁寧に読み研究していく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検準2・2級程度、秋学期は仏検2・準1級程度の文章を扱う。やる気があれば現在のフランス語力は関係ない。</p> <p><b>その他</b>：全員予習は必須。毎回ランダムに指名して答えてもらう。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。試験では全て応用問題を出題するので、授業の中で扱った構文を本当に理解できていなければ得点できない（すなわち、丸暗記ではダメ）。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は第1回目の授業に出席すること。</p> <p><b>単語テスト</b>：3回目以降の各授業の冒頭5分程度で実施。このテストの成績が悪くても評価には影響しないが、良ければ平常点に加点してプラス評価を付ける。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明</p> <p>第2回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回プリントを配付する。		主に、応用問題の和訳試験により評価する。 その他、詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。	

	フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

	フランス語学講読 a	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
テキストをひとつに限定せず、適宜いくつかの短文を読む予定。		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはハンドアウトを配布する。		評価は試験成績と出席状況による。	

	フランス語学講読 b	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
テキストをひとつに限定せず、適宜いくつかの短文を読む予定。		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはハンドアウトを配布する。		評価は試験成績と出席状況による。	

	フランス文学講読 a	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> Nous lirons ensemble un petit texte de Michel Tournier : <i>Amandine ou les deux jardins</i> Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p>		<p>Lecture suivie du livre <i>Amandine ou les deux jardins</i> : Amandine vit sagement avec ses parents dans une maison bien rangée et un jardin très bien entretenu. Amandine, rêve d'escalader le mur qui clôture leur jardin pour aller explorer un autre jardin bien plus grand et rempli de mystères...</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p> <p>Attention : nous continuons la lecture de <i>Amandine ou les deux jardins</i> pendant le deuxième semestre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours	

	フランス文学講読 b	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> Nous lirons ensemble la suite du texte de Michel Tournier: <i>Amandine ou les deux jardins</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p>		<p>Nous continuerons la lecture du livre <i>Amandine ou les deux jardins</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Une partie du cours sera consacrée à un travail de groupe autour du livre qui aura été lu pendant les vacances.</p> <p>Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaite pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours	

	フランス文学講読 a	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度に引き続き 19 世紀フランスの文豪バルザックの代表作の一つ『ゴリオ爺さん』を読みます。この小説はバルザックの連作『人間喜劇』の成立に重要な意味を持っています。</p> <p>また解説にはパリの地誌や 19 世紀の社会史についての知識が欠かせません。そこで授業では単なる読解ではなく、インターネットなどで関連する画像を探し出し具体的に事物を理解するように努めます。</p> <p>2004 年に公開された映画『ゴリオ爺さん』はルーマニアでロケされたものですが、19 世紀パリを再現するための工夫が凝らされています。授業では場面ごとに原作と比較対照してゆきます。</p> <p>学生は担当部分のテキストについて解説し、画像を含めたパワーポイントによるプレゼンテーションを作製して、発表します。サンプルは昨年度のものを参照し、成果は講義支援システム上に掲載します。また原則としてアンケートを取って平常点をつけます。</p>		<p>1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介</p> <p>2 パリと江戸の貸し本屋</p> <p>3 過去の作例</p> <p>4～12 学生による発表と教員のコメント、討論。画像の紹介と解説</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
<p>テキスト：Balzac, <i>Le père Griot</i>, 講義支援システム上で配布</p> <p>参考文献：伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版</p>		<p>テキストの解説とプレゼンテーションおよび平常点</p>	

	フランス文学講読 b	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		<p>1～12</p> <p>学生による発表と教員によるコメント、討論。画像の紹介と解説</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
同上。		同上。	

	フランス文学講読 a	担当者	近江屋 志穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、日記形式のテキストの講読を行う。春学期はアニー・エルノーの <i>La Vie extérieure</i> を読む。</p> <p>一般に、日記の一つの断章には、作者の思索や一日の生活の雑多な出来事などが混在しているが、アニー・エルノーの日記では、多くの場合、それぞれの断章において一つのテーマしか展開されない。そして各断章に、ユーモアのきいた結論が付されている。また、この作家は、日記に「外の世界」を記述する、と宣言する。その意味するところは、日常生活の様々な場で展開される風景を記すということである。彼女は、地下鉄の車両やスーパーマーケット、病院の待合室などで出会った見知らぬ人々の動作を観察し、会話を聞き、それを記述する。その語り口は常に簡潔であり、まるで写真に写すかのように、一瞬の光景を書きとめる。</p> <p>テキストの全体の把握は一見容易だが、構文や語彙のニュアンスを正確に理解するためには努力を要する。</p> <p>独特の観点から書かれたアニー・エルノーの日記の講読を通して、フランスの日常生活に触れるとともに、読解力を強化することをめざす。さらに授業の後半では、この日記の形式に倣い、フランス語の日記を書く練習を行う。</p>		<p>1. イントロダクション 2～10 テキストの講読 11～12 作文練習</p> <p>学期初めはテキストの一部をコピーして配布する。講読の進め方は受講者の人数による。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Annie Ernaux, <i>La vie extérieure</i> , collection folio, Gallimard, 2000.		平常点（出席・予習）及び試験	

	フランス文学講読 b	担当者	近江屋 志穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の進度にもよるが、後期はミシェル・トゥルニエの <i>Journal Exitme</i> をはじめとして、いくつかの現代作家の日記を扱う。</p> <p>日記に用いられる豊かな語彙や表現、多様な文体、叙述や描写などの語りの様式を理解しつつ、そこに映し出されるフランスの文化を読み取っていく。</p>		春学期と同様に、予習を前提とした講読の授業を行う。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		春学期と同様	

	フランス文学講読 a	担当者	田桐 正彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
サミュエル・ベケットの戯曲『ゴドーを待ちながら』を読みます。★印の回には発表をしてもらいます。教室を少人数のグループに分けて授業をします。		1、ガイダンス、作業班の編成、発表テーマの割り当て 2、『ゴドーを読む』 I 3、『ゴドーを読む』 II 4、『ゴドーを読む』 III 5、『ゴドーを読む』 IV 6、★ベケットについて 7、『ゴドーを読む』 V 8、『ゴドーを読む』 VI 9、『ゴドーを読む』 VII 10、『ゴドーを読む』 VIII 11、★名優気分をちょっとだけ 発表会 その1 12、★名優気分をちょっとだけ 発表会 その2	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布します。		試験、平常点、出席状況で評価します。	

	フランス文学講読 b	担当者	田桐 正彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランスのさまざまな詩を読みます。★印の回には発表をしてもらいます。教室を少人数のグループに分けて授業をします。		1、ガイダンス、作業班の編成 2、19世紀の詩 I 3、19世紀の詩 II 4、20世紀の詩 I 5、20世紀の詩 II 6、20世紀の詩 III 7、20世紀の詩 IV 8、20世紀の詩 V 9、詩の現在 10、★わたしの1篇 その1 11、★わたしの1篇 その2 12、★わたしの1篇 その3	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布します。		試験、平常点、出席状況で評価します。	

	フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>19世紀の小説家 Alexandre Dumas の怪奇幻想中編小説 <i>La Dame pâle</i> を読む。(翻訳はない)。  授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。  受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p>		<p>1回目：授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。  2回目以降：講読。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Alexandre Dumas, <i>La Dame pâle</i> , Paris, Gallimard, Collection Folio.		定期試験および平常点（出席および予習の程度）。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、出席・試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

	フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の続き。(春学期を履修していることが望ましい)。  ただし、学期途中で上記の作品を読み終わった場合は、Dumas の他の中編小説をプリントで読む。</p>		<p>春学期の続き。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

	フランス文学講読 a	担当者	根本 祐徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>19世紀の詩人 Charles Baudelaire の散文詩 <i>Le spleen de Paris</i> 『パリの憂鬱』を読みます。比較的平易なフランス語で書かれているので、興味をもって読んでいけると思います。</p> <p>最初は Baudelaire 入門として4つの詩を読み、鑑賞しながら、詩人の生涯について簡単に書かれたフランス語を読みます。</p>		<p>毎週、受講生4～5名に訳読させ、その後で文法的説明を加えながらか作品について解説していきます。</p> <p>前もって受講者に訳読箇所をあてませんから、受講者は必ず予習が必要になります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『ボードレールによるエチュード』 朝日出版社 プリント配布		授業への参加度（予習と訳を担当すること）と定期試験によって評価します。ですから一度も訳を担当しないものは評価の対象になりません。	

	フランス文学講読 b	担当者	根本 祐徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
『パリの憂鬱』を中心に読んでいきます		上に同じ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
上に同じ		上に同じ	

	フランス文学講読 a	担当者	保莉 瑞穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランス文学には比較的童話が少ないのですが、そのなかで20世紀の小説家ジュリアン・グリーンの「亡霊たちの夜」は貴重な一冊と言えます。童話といっても、大人にも十分読み応えがある作品なので、平易なフランス語を通して、グリーン独特な文学の世界を味わってください。		毎週、担当する者を決めておいて、テキストの訳読をしてもらいます。そのあとで、必要な文法事項の説明や、内容の検討を行います。受講生の数を40名程度にします。希望者が多い場合は、なんらかの方法で選考を行います。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「亡霊たちの夜」(白水社)		学期末の定期試験と、平常点、出席を加味して評価します。	

	フランス文学講読 b	担当者	保莉 瑞穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期の事項を参照。		春学期の事項を参照。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期の事項を参照。		春学期の事項を参照。	

	フランス文学講読 a	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Antoine de Saint-Exupéry の <i>Le Petit Prince</i> をよみます。『星の王子様』の名で日本でもしたしまれている作品です。邦訳も何種類か出版されています。</p> <p>必要な解説は加えますが、何よりも声にして原文をよむことに力を入れたいと思います。</p>		<p>第1回目の授業で、使用するテキスト、授業の進め方等を説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Antoine de Saint-Exupéry, <i>Le Petit Prince</i>		暗誦、または朗読の試験	

	フランス文学講読 b	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期参照。		春学期参照。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期参照。		春学期参照。	

	フランス文化・社会概論 a	担当者	前川 久美子																																				
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																					
<p>フランス語やフランスに関することがらを学んでゆくうえで必要な基礎知識や、フランス語学科学生に要求される「常識」を身につけるための授業で、複数の教員が、地理・歴史から日常生活にいたるまで多岐にわたる講義をおこないます。</p> <p>フランス文化・社会を専攻しようとする学生のみならず、フランス語学・文学を専攻しようとする学生もできるだけ第一年次に受講してください。</p> <p>4月11日のガイダンスで、授業の進め方、評価方法、受講に関する注意などを説明しますので、受講希望者はかならず出席してください。</p>		<table border="1"> <tr><td>4/11</td><td>ガイダンス</td><td>前川</td></tr> <tr><td>4/18</td><td>フランスの地域</td><td>鈴木</td></tr> <tr><td>4/25</td><td>フランスの地域</td><td>鈴木</td></tr> <tr><td>5/2</td><td>フランスの地域</td><td>鈴木</td></tr> <tr><td>5/9</td><td>フランスの地域</td><td>鈴木</td></tr> <tr><td>5/16</td><td>歴史</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>5/23</td><td>歴史</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>5/30</td><td>歴史</td><td>伊藤</td></tr> <tr><td>6/6</td><td>歴史</td><td>伊藤</td></tr> <tr><td>6/13</td><td>経済</td><td>千代浦</td></tr> <tr><td>6/20</td><td>経済</td><td>千代浦</td></tr> <tr><td>6/27</td><td>経済</td><td>千代浦</td></tr> </table>		4/11	ガイダンス	前川	4/18	フランスの地域	鈴木	4/25	フランスの地域	鈴木	5/2	フランスの地域	鈴木	5/9	フランスの地域	鈴木	5/16	歴史	藤田	5/23	歴史	藤田	5/30	歴史	伊藤	6/6	歴史	伊藤	6/13	経済	千代浦	6/20	経済	千代浦	6/27	経済	千代浦
4/11	ガイダンス	前川																																					
4/18	フランスの地域	鈴木																																					
4/25	フランスの地域	鈴木																																					
5/2	フランスの地域	鈴木																																					
5/9	フランスの地域	鈴木																																					
5/16	歴史	藤田																																					
5/23	歴史	藤田																																					
5/30	歴史	伊藤																																					
6/6	歴史	伊藤																																					
6/13	経済	千代浦																																					
6/20	経済	千代浦																																					
6/27	経済	千代浦																																					
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																																					
各教員が必要に応じ授業時に紹介します。		定期試験と平常点による。 毎回出席カードで出席をとります。出席カードに関する不正は減点の対象になります。																																					

	フランス文化・社会概論 b	担当者	前川 久美子																																				
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																					
同上		<table border="1"> <tr><td>9/26</td><td>政治</td><td>井上</td></tr> <tr><td>10/3</td><td>政治</td><td>井上</td></tr> <tr><td>10/10</td><td>政治</td><td>井上</td></tr> <tr><td>10/17</td><td>フランス語と世界</td><td>田中</td></tr> <tr><td>10/24</td><td>フランス語と世界</td><td>田中</td></tr> <tr><td>10/31</td><td>フランスの教育</td><td>筒井</td></tr> <tr><td>11/7</td><td>フランスの教育</td><td>筒井</td></tr> <tr><td>11/14</td><td>食文化</td><td>江花</td></tr> <tr><td>11/28</td><td>食文化</td><td>江花</td></tr> <tr><td>12/5</td><td>パリ</td><td>横地</td></tr> <tr><td>12/12</td><td>パリ</td><td>横地</td></tr> <tr><td>12/19</td><td>まとめ・予備</td><td>前川</td></tr> </table>		9/26	政治	井上	10/3	政治	井上	10/10	政治	井上	10/17	フランス語と世界	田中	10/24	フランス語と世界	田中	10/31	フランスの教育	筒井	11/7	フランスの教育	筒井	11/14	食文化	江花	11/28	食文化	江花	12/5	パリ	横地	12/12	パリ	横地	12/19	まとめ・予備	前川
9/26	政治	井上																																					
10/3	政治	井上																																					
10/10	政治	井上																																					
10/17	フランス語と世界	田中																																					
10/24	フランス語と世界	田中																																					
10/31	フランスの教育	筒井																																					
11/7	フランスの教育	筒井																																					
11/14	食文化	江花																																					
11/28	食文化	江花																																					
12/5	パリ	横地																																					
12/12	パリ	横地																																					
12/19	まとめ・予備	前川																																					
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																																					
同上		同上																																					

	(春) フランス事情	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代フランスが直面しているさまざまな問題を新聞、雑誌、テレビの番組などを通して理解するのがこの講座の目的です。フランスはヨーロッパ共同体とどうかかわっていくべきか、移民問題をどうするのか、若者の就職難をどのように解決するのか、世界が自由主義経済化していくなかでフランスはどのように対処すべきか、等の問題を扱いたいと思っています。また、音楽などを通して、フランス人のものの見方、考え方、生活などについても触れるつもりです。</p>		<p>一方的な講義ではなく、相互コミュニケーションを大切にして授業を進めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント配布。また CD その他を使用することがあります。</p>		<p>期末試験および平常点</p>	

	(秋) フランス事情	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>テーマ: 「フランスでの生活」</p> <p>&lt;授業目的&gt; 「フランス人のフランスでの生活」を基本にフランスという国について様々な角度から概観し、基礎的な事柄、フランスの文化や伝統、生活習慣、フランス人と日本人について、またフランス語という言葉、そしてヨーロッパの中のフランス等、「フランス」についての理解を深める。</p> <p>&lt;授業概要&gt; 大きく5つのテーマに分け、それぞれ1～3回にわたって授業で取り上げる。「フランス」という国についての基礎的事柄の習得を目標とするので、暗記する一つの機会として試験を行う。また、各自、興味のあるテーマを一つ決め、フランスをよく知るためにレポートを作成する。</p>		<p>5つのテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Généralités</li> <li>2. La France en Europe</li> <li>3. La vie au quotidien</li> <li>4. Les loisirs (Repères culturels)</li> <li>5. La vie en société (en famille, à l'école, au travail)</li> </ol> <p>(授業で扱う順は授業進度等の都合により、変更することがある。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>必要時にプリントを配布する。 参考文献については、各テーマ毎に必要なに応じて授業中に指示する。</p>		<p>試験 (50点) と レポート (50点)。</p>	

	フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの地域に関して、その実情、課題、取り組み等を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>地域の概念と実体および地域の分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の概念と実体</li> <li>2 地域の概念と実体</li> <li>3 近代地方制度の成立 (旧体制の地方制度)</li> <li>4 近代地方制度の成立 (県)</li> <li>5 近代地方制度の成立 (県)</li> <li>6 近代地方制度の成立 (レジオン)</li> <li>7 近代地方制度の成立 (レジオン)</li> <li>8 小括</li> <li>9 生活圏の広がり</li> <li>10 基礎自治体としてのコミューヌ</li> <li>11 コミュューヌの広域連合</li> <li>12 コミュューヌの広域連合</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは用いない。資料を配布する。参考文献は授業の中で必要に応じて紹介する。</p>		<p>中間および期末の試験によって評価する。</p>	

	フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの地域に関して、その実情、課題、取り組み等を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>地域の概念と実体および地域の分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の構造</li> <li>2 地域の構造</li> <li>3 地域政策</li> <li>4 地域政策</li> <li>5 新しい地域制度の模索</li> <li>6 新しい地域制度の模索</li> <li>7 小括</li> <li>8 都市政策と地域の再生</li> <li>9 都市政策と地域の再生</li> <li>10 都市政策と地域の再生</li> <li>11 都市政策と地域の再生</li> <li>12 都市政策と地域の再生</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>特定のテキストは用いない。必要な資料を配布する。</p>		<p>中間および期末の試験によって評価する。</p>	

	フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： *フランス史の基礎知識を習得する。 *フランス社会の歴史的な特質を理解する。</p> <p>講義概要： フランス史の概説をおこないます。古代から中世まで、各時代を概観した上で、個別的な問題を取り上げて論じます。また関連史料を読んだり、ビデオなども見る予定です。</p> <p>参考文献： 福井憲彦編「フランス史」(新版世界各国史 12) 山川出版社。その他の文献については、教室で指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 古代：ケルト時代</li> <li>3. 古代：ガロ＝ローマ時代</li> <li>4. 初期中世 (1)</li> <li>5. 初期中世 (2)</li> <li>6. 紀元千年について (1)</li> <li>7. 紀元千年について (2)</li> <li>8. 盛期中世 (1)</li> <li>9. 盛期中世 (2)</li> <li>10. 後期中世 (1)</li> <li>11. 後期中世 (2)</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。		試験、平常点、など。	

	フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： *フランス史の基礎知識を習得する。 *フランス社会の歴史的な特質を理解する。</p> <p>講義概要： フランス史の概説をおこないます。16世紀から19世紀まで、各時代を概観した上で、個別的な問題を取り上げて論じます。また関連史料を読んだり、ビデオなども見る予定です。</p> <p>参考文献： 福井憲彦編「フランス史」(新版世界各国史 12) 山川出版社。その他の文献については、教室で指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 16世紀 (1)</li> <li>3. 16世紀 (2)</li> <li>4. 17世紀 (1)</li> <li>5. 17世紀 (2)</li> <li>6. 18世紀 (1)</li> <li>7. 18世紀 (2)</li> <li>8. フランス革命 (1)</li> <li>9. フランス革命 (2)</li> <li>10. 19世紀 (1)</li> <li>11. 19世紀 (2)</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。		試験、平常点、など。	

	フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では現代フランスの思想、とりわけジャック・デリダを取り上げます。しかし彼の思想は長いヨーロッパの哲学的伝統を踏まえているので、春学期はその流れを追っていきます。</p> <p>具体的にはデカルトに始まり、ルソーを経て、現代思想にいたる流れを、テキストの抜粋を読みながら解説します。デカルト『方法序説』ルソー『社会契約論』『エミール』からニーチェ『ツァラツストラはこう言った』ハイデガー『存在と時間』などを読みます。</p> <p>単に知識を教えるのではなく、皆さんがものを自分で考える一助となるような講座にできればと思っています。</p>		<p>一方的な講義ではなく、相互コミュニケーションを重要視しています。皆さんの積極的な参加を期待します。講義で取り上げた本だけでなく、自分でも積極的に本を読み、自分の世界を広げてもらいたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布 (CD,DVD などを使用することがあります)		期末レポートおよび平常点	

	フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の続きで、ジャック・デリダを主に論じます。また彼と関係の深いもうひとりの哲学者エマニュエル・レヴィナスと作家モーリス・ブランショについても考えたいと思っています。</p> <p>またデリダと精神分析の関係にも時間があれば触れます。</p> <p>授業はテキストの抜粋（フランス語と日本語）を読むという形で進めます。</p>		<p>一方的な講義ではなく、相互コミュニケーションを重要視しています。皆さんの積極的な参加を期待します。講義で取り上げた本だけでなく、自分でも積極的に本を読み、自分の世界を広げてもらいたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。CD,DVD などを使用することがあります。		期末レポートおよび平常点	

	フランスの美術 a	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスというよりはヨーロッパ全体を視野に入れ、西洋美術史における、比較的限定された一つの問題を追及します。</p> <p>一方的な「講義」ではなく、聴講者が積極的に考え、発表、議論してゆきます。毎回必ず予習して、積極的に授業に参加してください。</p> <p>第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)。</p> <p>この授業では年度を通して(同一年度の春・秋学期)同じテーマを扱い、テーマは毎年度変わります。重複受講は歓迎しますが、一学期のみの受講(とくに同一年度の春学期を聴講せずに秋学期のみを受講すること)はご遠慮ください。</p>		<p>1 イントロダクション</p> <p>2~12 文献講読、関連事項についての発表など</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に指示します。		テストと平常点(課題への取り組みと成果および発言などの授業への貢献)による。	

	フランスの美術 b	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		1~12 夏休みの課題の発表、文献講読など	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

	フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>西洋音楽において時代・社会の変化とともに音楽の表現がどのように変わってきたかという視点で、フランスを中心に広く西洋音楽史全体を年代順に見ていく。</p> <p>音楽を聴き、楽譜や映像を見たりしながら進めていくが、とくに歌うことによって各時代の音楽構造や響きの違いを実感できるようにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに</li> <li>2.グレゴリオ聖歌</li> <li>3.オルガヌム</li> <li>4.13世紀：パリのノートルダム楽派とフランスの世俗音楽</li> <li>5.14～15世紀：アルス・ノヴァとブルゴーニュ楽派</li> <li>6.16世紀：ルネサンスのネーデルランド楽派</li> <li>7.16世紀末のイタリア</li> <li>8.17世紀バロック初期のオペラ</li> <li>9.バロックの声楽1</li> <li>10.バロックの声楽2</li> <li>11.バロックの声楽3</li> <li>12.まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		出席・試験（原則として出席が 1/3 以下の学生には受験を認めない）	

	フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>西洋音楽において時代・社会の変化とともに音楽の表現がどのように変わってきたかという視点で、フランスを中心に広く西洋音楽史全体を年代順に見ていく。</p> <p>音楽を聴き、楽譜や映像を見たりしながら進めていくが、とくに歌うことによって各時代の音楽構造や響きの違いを実感できるようにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.バロックの器楽1</li> <li>2.バロックの器楽2</li> <li>3.18世紀古典派1</li> <li>4.18世紀古典派2</li> <li>5.18世紀古典派3</li> <li>6.19世紀ロマン派1</li> <li>7.19世紀ロマン派2</li> <li>8.19世紀ロマン派3</li> <li>9.19世紀後半フランス1</li> <li>10.19世紀後半フランス2</li> <li>11.19世紀後半フランス3</li> <li>12.20世紀初フランス</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		出席・試験（原則として出席が 1/3 以下の学生には受験を認めない）	

	フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、フランス 18 世紀の喜劇を取り上げます。春学期は 18 世紀前半を扱いますが、特に、恋愛心理喜劇の名手 Marivaux に焦点を当てる予定です。Marivaux は、現在フランスでもっとも人気がある古典劇作家の一人であり、上演回数もきわめて多い作家です。</p> <p>授業では、作品の理解を助けるため、DVD やビデオなども活用する予定です。</p> <p>受講者には、随時自分の頭で考えることを求めますので、受動的な態度の受講者は歓迎されません。評価は大変厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。</p>		<p>春学期は主に次の内容を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 18 世紀前半におけるフランスの政治と社会</li> <li>2 18 世紀前半におけるフランスの演劇状況</li> <li>3 Marivaux の紹介</li> <li>4 作品分析 (1) -マリヴォー『偽りの告白』</li> <li>5 作品分析 (2) -マリヴォー『愛と偶然の戯れ』</li> </ol> <p>なお、上記の内容は変更される場合もあります。一応の目安程度に考えてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		学期末の定期試験による評価。ただし、原則として 3 分の 2 以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

	フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期からの継続で、秋学期は 18 世紀後半を扱います。特に、大革命の足音が聞こえる時期に活躍した「時代の子」、マルチな才能を発揮した風雲児 Beaumarchais に焦点を当てる予定です。</p>		<p>秋学期は主に次の内容を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 18 世紀後半におけるフランスの政治と社会</li> <li>2 18 世紀後半におけるフランスの演劇状況</li> <li>3 Beaumarchais の紹介</li> <li>4 作品分析 (1) -ボーマルシェ『セビーリヤの理髪師』</li> <li>5 作品分析 (2) -ボーマルシェ『フィガロの結婚』</li> </ol> <p>なお、上記の内容は変更される場合もあります。一応の目安程度に考えてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		学期末の定期試験による評価。ただし、原則として 3 分の 2 以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

	フランスの政治 a	担当者	井上 スズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本年度は下記のテキストを使用する。本書は現行の政治制度を簡潔にまとめて解説したもので、フランスの政治の授業には最適なテキストである。本書によりフランスの政治の仕組みがわかるとともに、所々にコラム欄があって、これがフランス独自の制度・慣行についての理解を深めるのに役立つ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政治制度史概観</li> <li>2. 同上</li> <li>3. 第五共和制の枠組み</li> <li>4. 大統領と首相</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 議会</li> <li>7. 憲法院</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 選挙と政党</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 地方自治</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>大山礼子 『フランスの政治制度』 東信堂</p>		<p>出席と試験</p>	

	フランスの政治 b	担当者	井上 スズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>下記のテキストはフランスを専門とする外務省の実務家によるフランス外交論である。研究書ではないがフランス外交を簡潔に紹介したものでテキストとして使用するのに適当と思う。本書の一貫する主張は、自主独立外交の強調である。叙述は時代順ではないのでその点に授業では配慮しつつ、また私見も述べていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イラクをめぐる確執</li> <li>2. 仏米対立の本質</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 摩擦の歴史</li> <li>5. つかず離れずの同盟政策</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 足場ヨーロッパ</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 勢力圏 アフリカ</li> <li>10. 文化と言葉</li> <li>11. 外交の最終的担保としての軍事力</li> <li>12. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>山田文比古 『フランスの外交力』 集英社新書</p>		<p>出席と試験</p>	

	フランスの経済a	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><u>講義概要</u> フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成している、主に18世紀以後第二次大戦前までのフランス経済発展史について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単な経済用語の基礎知識</li> <li>2. フランス経済の基礎データ</li> <li>3. 経済発展と工業化についての全般的基礎知識</li> <li>4. フランス革命以前のフランス経済</li> <li>5. フランス産業革命前史(旧体制下の経済と社会、フランス大革命とナポレオン一世の時代)</li> <li>6. フランス産業革命の特徴</li> <li>7. フランスの農業と産業革命</li> <li>8. フランスの工業化と人口問題</li> <li>9. フランスの天然資源問題と工業化</li> <li>10. フランスの保護主義と植民地経営</li> <li>11. フランスの金融制度の発展と工業化</li> <li>12. フランス工業化の社会的諸条件</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
一般・統計資料をスクリーンに映写して説明する。参考文献:服部春彦、谷川稔編著『フランス近代史』(ミネルヴァ書房、1993)		定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。	

	フランスの経済b	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><u>講義概要</u> 第二次世界大戦後のフランス経済の成長と変遷を、おもに経済計画と企業国有化・民営化の流れに沿って説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後フランスの経済:基礎経済統計</li> <li>2. 戦後フランスの政治と経済の概観</li> <li>3. 戦後フランス経済の復興と発展</li> <li>4. 計画化と第一次国有化</li> <li>5. EEC発足とフランス経済の開放化</li> <li>6. ドゴール時代とポンピドゥー時代の経済政策</li> <li>7. ジスカールデスタン時代とバール・ブラン</li> <li>8. ミッテラン時代の経済政策① 第二次国有化と社会党経済政策の変遷</li> <li>9. ミッテラン時代の経済政策② 保革共存と民営化の進展</li> <li>10. ミッテラン時代の経済政策③ ヨーロッパ連合とフランス経済の進路</li> <li>11. シラク時代の経済政策と経済の現状</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト:統計資料などを随時に配布する。 統計資料をスクリーンに映写して説明する。 参考文献:渡邊啓貴著『フランス現代史』(中公新書、1998)		定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。	

	フランス文化・社会各論 a	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1970年代から現代に至るフランス社会の変化を女性の視点から考察する。 具体的なテーマについては、受講生の要望を配慮して、決定する。		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書は用いないが、毎回、参考資料を配付する。 参考文献は授業時に指示する。		毎回提出してもらい簡単なペーパーと期末のレポートで評価する。	

	フランス文化・社会各論 b	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1970年代から現代に至るフランス社会の変化を女性の視点から考察する。 具体的なテーマについては、受講生の要望を配慮して、決定する。		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書は用いないが、毎回、参考資料を配付する。 参考文献は授業時に指示する。		毎回提出してもらい簡単なペーパーと期末のレポートで評価する。	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>But du cours</u> :</p> Pouvoir lire et comprendre des textes à contenu politique, sociologique ou économique. <p><u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux enfants, collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport à la France et aux relations internationales (Europe, francophonie, ONG, etc.). Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels.</p> <p><u>Méthode</u> :</p> Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. <u>Pas de traduction.</u>		1 Articles tirés de journaux pour enfants. 2 3 4 5 6 Petit test de vocabulaire 7 8 9 10 11 12	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Petit test de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes.	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir le premier semestre		1 Articles tirés de journaux pour lycéens 2 3 4 5 6 Petit test de vocabulaire (facultatif) 7 8 9 Articles tirés de journaux courants 10 11 12	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		examen semestriel : lecture à haute voix, vocabulaire, grammaire, compréhension des textes.	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	井上 スズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まずは最近のフランス外交の概要を知るため、フランス外務省刊行の <i>La France et le monde</i> の一部を講読する。テキストは受講者にプリントで配布する。</p>		<p>毎回担当を決めて訳してもらい、更に内容について私が説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席と試験	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	井上 スズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>H.Védrine , <i>Face à l'hyper-puissance</i>, Fayard, 2003.</p> <p>著者 H.ヴェドリーヌは、長期にわたってミッテラン政権下で大統領府事務総長を務め、ミッテラン死後 1997 年—2002 年 いわゆる保革政権期に社会党ジョスパン政権下で外相を務めた人物である。この経歴からも外交のベテランであるといえるとともに、彼は温厚な人物であるが、鋭い政治感覚を持つ。本書は外交専門誌等に掲載された対談を集めたもので、論文ではないので文章も難しくはない。</p>		<p>毎回担当を決めて訳してもらい、更に私が説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席と試験	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
2-3週で読み終わられるくらいの長さの、現代のフランス女性に関するテキストを読む。 フランス語の知識の確認と同時に、テキストを通して現代フランス社会について学ぶ。		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配付		平常の参加度と期末試験で評価する	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
2-3週で読み終わられるくらいの長さの、現代のフランス女性に関するテキストを読む。 フランス語の知識の確認と同時に、テキストを通して現代フランス社会について学ぶ。		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配付		平常の参加度と期末試験で評価する	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、文献の講読を中心として講義を行うことにより、フランスの文化と社会について理解を深め、且つ、より高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>本年度の講義では、フランスの環境に関する文献を取り上げる。受講生は予め割り当てられた文献について予習をし、授業で発表を行う。学生の発表の後で、教師が発表内容についての論評および文献の内容についての解説を行う。</p> <p>1年間の授業内容に一貫性があるので、春学期と秋学期を合わせて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論：はじめに</li> <li>2 総論：気候変動</li> <li>3 総論：社会の環境効率の向上へ向けて</li> <li>4 総論：資源の制約の認識</li> <li>5 総論：生産と環境への負荷について</li> <li>6 総論：消費に起因する負荷</li> <li>7 総論：生物の多様性への打撃</li> <li>8 総論：リスク拡大の認識</li> <li>9 人口の増加・高齢化と環境</li> <li>10 人口の増加・高齢化と環境</li> <li>11 生活形態の変化と環境</li> <li>12 生活形態の変化と環境</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講読の資料は授業中に配布する。参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。		授業中の発表および期末試験によって評価する。	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、文献の講読を中心として講義を行うことにより、フランスの文化と社会について理解を深め、且つ、より高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>本年度の講義では、フランスの環境に関する文献を取り上げる。受講生は予め割り当てられた文献について予習をし、授業で発表を行う。学生の発表の後で、教師が発表内容についての論評および文献の内容についての解説を行う。</p> <p>1年間の授業内容に一貫性があるので、春学期と秋学期を合わせて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 居住と環境</li> <li>2 居住と環境</li> <li>3 観光・余暇活動と環境</li> <li>4 観光・余暇活動と環境</li> <li>5 生産と環境</li> <li>6 生産と環境</li> <li>7 交通と環境</li> <li>8 交通と環境</li> <li>9 資源管理と環境</li> <li>10 資源管理と環境</li> <li>11 環境保全政策</li> <li>12 環境保全政策</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講読の資料は授業中に配布する。参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。		授業中の発表および期末試験によって評価する。	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*フランス語の読解力を高める。</li> <li>*フランス中世の歴史や社会に対する理解を深める。</li> </ul> <p>講義概要：</p> <p>中世の騎士と騎士文化について、フランスの一般向け歴史雑誌 <i>L'Histoire</i> に掲載された記事などを中心に、関連する文献を読みます。</p>		<p>雑誌記事のほか、関連する資料やビデオを取り上げる予定です。詳細は最初の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>L' aventure des chevaliers, <i>Collections de l' Histoire</i>, No.16, juillet 2002. 他。</p>		<p>平常点、試験、など。</p>	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*フランス語の読解力を高める。</li> <li>*フランス中世の歴史や社会に対する理解を深める。</li> </ul> <p>講義概要：</p> <p>中世の騎士と騎士文化について、フランスの一般向け歴史雑誌 <i>L'Histoire</i> に掲載された記事などを中心に、関連する文献を読みます。</p>		<p>雑誌記事のほか、関連する資料やビデオを取り上げる予定です。詳細は最初の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>L' aventure des chevaliers, <i>Collections de l' Histoire</i>, No.16, juillet 2002. 他。</p>		<p>平常点、試験、など。</p>	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>美術作品について書いたフランス語のテキストを読みます。</p> <p>文法事項を復習しながら、たんねんに辞書を引き、文章の構造を把握したうえで、訳文を書いて授業にのぞんでください。</p> <p>第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)。</p>		1~12 訳読など	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配ります。		テストに平常点を加味します。	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

	フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>これまで二年にわたってフロイトの「性理論に関する三つの論文」を読んできましたが、今年はその第一論文「性的倒錯」を読みます。この論文はさまざまな性的倒錯行為のメカニズムを、当時としてはまったく新しい観点から説明したものです。</p> <p>この本を私が教材として選んだのは次のような理由からです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 性の問題を理性的に取り扱う必要がある</li> <li>2) 内容のあるフランス語のテキストを読み、論文的なフランス語に慣れる。</li> </ol>		<p>テキストはプリントして配布します。</p> <p>毎回当てますから、当たった人は予習してきてください。テキストはやや難しく感じられるかも知れませんが、難解な箇所については解説します。また自分で考える習慣を身につけることもこの講座の目的のひとつです。フロイトのほかのテキスト、たとえば「精神分析入門」や「夢判断」などにも目を通すことが望ましい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sigmund Freud, <i>Trois essais sur la théorie sexuelle</i> , Gallimard プリント配布		期末レポートおよび平常点	

	フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sigmund Freud, <i>Trois essais sur la théorie sexuelle</i> , Gallimard プリント配布		期末レポートおよび平常点	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	B. K. カートル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. <b>Course Description:</b> This is <u>the first half</u> of a basic English communication course that will develop communication skills. Various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through fun activities. Six communication tests and six workbook assignments will be used to assess student progress.</p> <p>2. <b>Course Objectives:</b> At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities.</p> <p>3. <b>Classroom Management:</b> Student attendance and participation are <u>very</u> important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc.</p> <p>4. <b>Textbooks:</b> Students <u>must</u> bring a textbook and workbook on the very first day of class.</p> <p>5. <b>Contact:</b> The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo.</p>		<p><b>Week 1 – Lesson 1:</b> Unit 1 Workbook 1</p> <p><b>Week 2 – Lesson 2:</b> Unit 1 Test</p> <p><b>Week 3 – Lesson 3:</b> Unit 2 Workbook 2</p> <p><b>Week 4 – Lesson 4:</b> Unit 2 Test</p> <p><b>Week 5 – Lesson 5:</b> Unit 3 Workbook 3</p> <p><b>Week 6 – Lesson 6:</b> Unit 3 Test</p> <p><b>Week 7 – Lesson 7:</b> Unit 4 Workbook 4</p> <p><b>Week 8 – Lesson 8:</b> Unit 4 Test</p> <p><b>Week 9 – Lesson 9:</b> Unit 5 Workbook 5</p> <p><b>Week 10 – Lesson 10:</b> Unit 5 Test</p> <p><b>Week 11 – Lesson 11:</b> Unit 6 Workbook 6</p> <p><b>Week 12 – Lesson 12:</b> Unit 6 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i><b>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS</b></i> (ISBN 9789620058141)</p> <p><i><b>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS WORKBOOK</b></i> (ISBN 9789620058165)</p>		<p>Attendance &amp; Participation: 50%</p> <p>Tests: 30%</p> <p>Workbook Assignments: 20%</p>	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	B. K. カートル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. <b>Course Description:</b> This is <u>the second half</u> of a basic English communication course that will continue to develop communication skills. Various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through fun activities. Six communication tests and six workbook assignments will be used to assess student progress.</p> <p>2. <b>Course Objectives:</b> At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities.</p> <p>3. <b>Classroom Management:</b> Student attendance and participation are <u>very</u> important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc.</p> <p>4. <b>Textbooks:</b> Students <u>must</u> bring a textbook and workbook on the very first day of class.</p> <p>5. <b>Contact:</b> The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo.</p>		<p><b>Week 1 – Lesson 1:</b> Unit 7 Workbook 7</p> <p><b>Week 2 – Lesson 2:</b> Unit 7 Test</p> <p><b>Week 3 – Lesson 3:</b> Unit 8 Workbook 8</p> <p><b>Week 4 – Lesson 4:</b> Unit 8 Test</p> <p><b>Week 5 – Lesson 5:</b> Unit 9 Workbook 9</p> <p><b>Week 6 – Lesson 6:</b> Unit 9 Test</p> <p><b>Week 7 – Lesson 7:</b> Unit 10 Workbook 10</p> <p><b>Week 8 – Lesson 8:</b> Unit 10 Test</p> <p><b>Week 9 – Lesson 9:</b> Unit 11 Workbook 11</p> <p><b>Week 10 – Lesson 10:</b> Unit 11 Test</p> <p><b>Week 11 – Lesson 11:</b> Unit 12 Workbook 12</p> <p><b>Week 12 – Lesson 12:</b> Unit 12 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i><b>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS</b></i> (ISBN 9789620058141)</p> <p><i><b>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS WORKBOOK</b></i> (ISBN 9789620058165)</p>		<p>Attendance &amp; Participation: 50%</p> <p>Tests: 30%</p> <p>Workbook Assignments: 20%</p>	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Course Goals</b> This course aims to build students' confidence in their listening and speaking ability while also giving them strategies to improve communication skills.</p> <p><b>Skill Objectives</b> By the end of the course, students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Talk about themselves comfortably and ask others about themselves</li> <li>• Respond appropriately to various situations</li> <li>• Ask for clarification when they don't understand</li> <li>• Express themselves clearly in short conversations</li> </ul> <p><b>Activities and Coursework</b> Activities will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Role plays</li> <li>• Small group and class discussion</li> <li>• Making and viewing conversation videos</li> </ul>		<p><b>Schedule</b> Below is a tentative schedule for the Spring Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher.</p> <p>Week 1: Orientation – Course overview, meet classmates Weeks 2-10: Examine conversation strategies and discuss various common topics including:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Self-introductions</li> <li>• Introducing friends and colleagues</li> <li>• Family</li> <li>• Sports and hobbies</li> <li>• Food</li> <li>• Part-time jobs</li> </ul> <p>Week 11: Review Week 12: Final conversations and Self-evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		Students will be graded on class participation, homework, quizzes and a final project. ※ Attendance is required. ※出席方針: 欠席が3回を超えると単位を認めない。	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Course Goals</b> The course will continue as begun in the Spring Semester. This course aims to build students' confidence in their listening and speaking ability while also giving them strategies to improve communication skills.</p> <p><b>Skill Objectives</b> By the end of the course, students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Talk about themselves comfortably and ask others about themselves</li> <li>• Respond appropriately to various situations</li> <li>• Ask for clarification when they don't understand</li> <li>• Express themselves clearly in short conversations</li> </ul> <p><b>Activities and Coursework</b> Activities will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Role plays</li> <li>• Small group and class discussion</li> <li>• Making and viewing conversation videos</li> </ul>		<p><b>Schedule</b> Below is a tentative schedule for the Fall Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher.</p> <p>Week 1: Orientation – Term overview, greet classmates Weeks 2-10: Examine conversation strategies and discuss various common topics including:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Friends</li> <li>• School</li> <li>• Music</li> <li>• Dating</li> <li>• Travel</li> <li>• Future plans</li> </ul> <p>Week 11: Review Week 12: Final conversations and Self-evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		Students will be graded on class participation, homework, quizzes and a final project. ※ Attendance is required. ※出席方針: 欠席が3回を超えると単位を認めない。	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	J. ステイベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability.</p> <p>Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your conversations and think about what you are doing well and what areas you could improve.</p> <p>To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to do your best in 2 speaking tests and class quizzes.</p>		<p>This is a guide. The schedule may change.</p> <p>Lesson 1 – Course explanation and self-introductions</p> <p>Lessons 2-5 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 6 – Midterm conversation test + test journal</p> <p>Lessons 7-10 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 11 – End of term conversation test + test journal</p> <p>Lesson 12 – Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced in the first class.		This is a guide. This may change. Attendance 15%; Class participation 15%; Lesson reflection journals 10%; Quizzes 15% ; Conversation test reflection journals 15% ; Conversation tests 30%	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	J. ステイベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability.</p> <p>Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your conversations and think about what you are doing well and what areas you could improve in.</p> <p>To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to do your best in 2 speaking tests and class quizzes.</p>		<p>This is a guide. The schedule may change.</p> <p>Lesson 1 – Course explanation and self-introductions</p> <p>Lessons 2-5 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 6 – Midterm conversation test + test journal</p> <p>Lessons 7-10 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 11 – End of term conversation test + test journal</p> <p>Lesson 12 – Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced in the first class.		This is a guide. This may change. Attendance 15%; Class participation 15%; Lesson reflection journals 10%; Quizzes 15% ; Conversation test reflection journals 15% ; Conversation tests 30%	

02以前	英語Ⅲ	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02以前	英語Ⅲ	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02以前	英語Ⅲ	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02以前	英語Ⅲ	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	M. ミルティアダス												
講義目的、講義概要		授業計画													
<p>Welcome Everyone,</p> <p>In this class we are going to do a variety of activities throughout the Term ( Year ). All the activities are going to be based on the idea of exploring varies Topics and using all four skills.</p> <p><b>Course Outline</b></p> <p>In this class there are few rules that you must follow they are very simple. They are as follows: - If you are 15 minutes late you are considered absent</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ When you come in late do not make a noise or speak to your Friends. If you do then you will have to leave.</li> <li>■ No Telephones.</li> <li>■ When Homework is given, you must do it, as it is part of your final mark. It also necessary for an activity in the class.</li> <li>■ During the Year there are going to be various activities that have to be completed by a specific dated. <b>Don't be late</b> in handing them to me.</li> </ul> <p>The course involves a comprehensive look at the skills and approaches that help a listener tackle a passage. In the course we will tackle the various approaches to listening.</p>		<p>Lesson 1: Classroom English Students complete introduce themselves Semester outline</p> <p>Lesson 2: Personal information Classroom Expressions</p> <p>Lesson 3:Unit 7 Make predictions about visual prompts Infer word meaning from context Connect actions with behaviour</p> <p>Lesson 4:Unit 7 Taking notes from a lecture Integrate information and personal values Group discussion about what is intelligence</p> <p>Lesson 5: Unit 9 Compare cultural norms and how they differ in different countries Advantages and Disadvantages of certain customs in new countries</p> <p>Lesson 6: Unit 9 Listening for Opinions and identifying different views Give impromptu presentation using own ideas,support. Propose solutions to cultural problems</p> <p>Lesson 7: Unit 8 Make predictions Identify speaker's tone and emotions Note taking</p> <p>Lesson 8:Unit 8 Using Transitions and sequences Explaining Cause and Effect of actions of present generation Provide solutions to problems</p> <p>Lesson 9:Unit 10 Identifying opinions and supporting ideas Express and defend opinions(with facts,statistics)</p> <p>Lesson 10:Unit 10 Relate other's view to personal opinion Conducte a debate about present problem with technology Summarize observations on how to handle different situations</p> <p>Lesson 11: Review Choose theme for mid-term Presentation</p> <p>Lesson 12 Presentations</p>													
テキスト、参考文献		評価方法													
NorthStar-High IntetmediateListening and Speaking Longman- Ferre/Sanabria		<p><b>Grading</b> The students will be graded on four criteria</p> <table border="0"> <tr> <td>These be</td> <td>1)Attendance</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2) Homework</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3) A test on the skills of at the end of the Term/Year</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom</td> <td>25%</td> </tr> </table>		These be	1)Attendance	25%		2) Homework	20%		3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%		4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%
These be	1)Attendance	25%													
	2) Homework	20%													
	3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%													
	4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%													

0 2 以前	英語Ⅲ	担当者	M. ミルティアダス												
講義目的、講義概要		授業計画													
<p>Welcome Everyone,</p> <p>In this class we are going to do a variety of activities throughout the Term ( Year ). All the activities are going to be based on the idea of exploring varies Topics and using all four skills.</p> <p><b>Course Outline</b></p> <p>In this class there are few rules that you must follow they are very simple. They are as follows: - If you are 15 minutes late you are considered absent</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ When you come in late do not make a noise or speak to your Friends. If you do then you will have to leave.</li> <li>■ No Telephones.</li> <li>■ When Homework is given, you must do it, as it is part of your final mark. It also necessary for an activity in the class.</li> <li>■ During the Year there are going to be various activities that have to be completed by a specific dated. <b>Don't be late</b> in handing them to me.</li> </ul> <p>The course involves a comprehensive look at the skills and approaches that help a listener tackle a passage. In the course we will tackle the various approaches to listening.</p>		<p>Lesson 1: Classroom English Students complete introduce themselves Semester outline</p> <p>Lesson 2: Personal information Classroom Expressions</p> <p>Lesson 3:Unit 7 Make predictions about visual prompts Infer word meaning from context Connect actions with behaviour</p> <p>Lesson 4:Unit 7 Taking notes from a lecture Integrate information and personal values Group discussion about what is intelligence</p> <p>Lesson 5: Unit 9 Compare cultural norms and how they differ in different countries Advantages and Disadvantages of certain customs in new countries</p> <p>Lesson 6: Unit 9 Listening for Opinions and identifying different views Give impromptu presentation using own ideas,support. Propose solutions to cultural problems</p> <p>Lesson 7: Unit 8 Make predictions Identify speaker's tone and emotions Note taking</p> <p>Lesson 8:Unit 8 Using Transitions and sequences Explaining Cause and Effect of actions of present generation Provide solutions to problems</p> <p>Lesson 9:Unit 10 Identifying opinions and supporting ideas Express and defend opinions(with facts,statistics)</p> <p>Lesson 10:Unit 10 Relate other's view to personal opinion Conducte a debate about present problem with technology Summarize observations on how to handle different situations</p> <p>Lesson 11: Review Choose theme for mid-term Presentation</p> <p>Lesson 12 Presentations</p>													
テキスト、参考文献		評価方法													
NorthStar-High IntetmediateListening and Speaking Longman- Ferre/Sanabria		<p><b>Grading</b> The students will be graded on four criteria</p> <table border="0"> <tr> <td>These be</td> <td>1)Attendance</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2) Homework</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3) A test on the skills of at the end of the Term/Year</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom</td> <td>25%</td> </tr> </table>		These be	1)Attendance	25%		2) Homework	20%		3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%		4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%
These be	1)Attendance	25%													
	2) Homework	20%													
	3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%													
	4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%													

02以前	英語Ⅲ	担当者	石月 正伸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、英語の必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEIC のスコアが350～500の学生を対象としています。ただし、450～500レベルの学生は、授業に物足りなさを感じるかもしれません。</p> <p>授業では、</p> <p>① 「文法の復習とともに、1センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる（書く）練習をします。英文は、どれもBASICなものばかりです。</p> <p>各章の練習問題 I～III に関しては、学生に板書してもらい、添削及び解説しながら授業を進めてゆきます。練習問題の IV は、課題作文として、学生全員に提出してもらう予定です。</p> <p>② また、学生の人数やレベル、及び、授業の進捗状況にあわせて、適宜プリントを併用して、簡単な課題作文を課すことも考えています。</p> <p>詳しくは、ガイダンスで述べます。</p>		<p>以下の内容は、大まかな進行予定です。</p> <p>英文を板書した場合、1回の授業で、1つの章を最後まで終えることは不可能だろうと思うので、以下の進行状況にズレが生ずるはずです。従って、3箇所空欄を入れています。</p> <p>テストは、授業時間の一部を使って、50点満点で、2度行う。（第1回の実施日は未定）</p> <p>1 ガイダンス 2 第1章 3 第2章 4 第3章 5 6 第4章 7 第5章 8 第6章 第1回テスト（範囲：1～4） 9 10 第7章 11 第8章 12 第2回テスト（範囲：5～8）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための15章』、英宝社		授業時の発表点 + 授業時のテスト + レポート点 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： AA・A：2回 B：3回 C：4回	

02以前	英語Ⅲ	担当者	石月 正伸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業方針は、春学期と同じです。</p> <p>テキストは、春学期の続きです。</p> <p>ただし、選択授業の性格からして、学生の人数とレベルに変化が生ずる可能性があるため、授業方針に関しては、適宜若干の修正が必要になるかもしれません。</p> <p>また、春学期に比べ秋学期には、プリントの併用が増えることが予想されます。</p>		<p>以下の内容は、大まかな進行予定です。</p> <p>英文を板書した場合、1回の授業で、1つの章を最後まで終えることは不可能だろうと思うので、以下の進行状況にズレが生ずるはずです。従って、4箇所空欄を入れています。</p> <p>テストは、授業時間の一部を使って、50点満点で、2度行う。（第1回の実施日は未定）</p> <p>1 ガイダンス 2 第9章 3 第10章 4 第11章 5 6 第12章 7 第13章 8 第1回テスト（範囲：9～12） 9 第14章 10 第15章 11 12 第2回テスト（範囲：13～15）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための15章』、英宝社		授業時の発表点 + 授業時のテスト + レポート点 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： AA・A：2回 B：3回 C：4回	

02以前	英語Ⅲ	担当者	笠原 誠也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文法の基礎に立ち返りながら、英作の訓練を行う。</p> <p>英作は、英語講読と比べ、訓練に費やされる時間がより少ない傾向があるため、講読より習熟度の上で数段劣っているものと思われる。講読できる英語のレベルにまで、英作の英語を一步でも近づけようというのが、この授業の目的である。</p> <p>文法の項目別に、単元が組み立てられているテキストを使用するため、基本英文法のおさらいを希望する学生や、非常に単純な構造の文から再度英作に挑みたいと望む学生には、要望に沿った講義となるはずである。</p> <p>講義と言ったが、実際の授業は学生による英作の実践作業が中心となる。但し、テクノロジーの急速な進歩を鑑み、手書きで英語を作るのはもはや旧式であるため、パソコンのワードにキーボードで打ち込んで英作を行ってもらいやり方を取る。それをプリントアウトして、毎回提出して頂く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Be 動詞と一般動詞</li> <li>2. 否定文</li> <li>3. 疑問文</li> <li>4. 助動詞</li> <li>5. 第1文型と第2文型</li> <li>6. 第3文型と第4文型</li> <li>7. 進行形</li> <li>8. 受動態</li> <li>9. 第5文型（知覚、認識など）</li> <li>10. 第5文型（使役、許可、願望など）</li> <li>11. 完了形</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
First Voyage 木村啓子他著 南雲堂		平常点重視（全体の30%以上） あとは定期試験で最終成績を出す	

02以前	英語Ⅲ	担当者	笠原 誠也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 動名詞</li> <li>13. 不定詞1</li> <li>14. 不定詞2</li> <li>15. 分詞</li> <li>16. 名詞節と副詞節</li> <li>17. 分詞構文</li> <li>18. 関係代名詞</li> <li>19. 関係副詞</li> <li>20. 比較1</li> <li>21. 比較2</li> <li>22. 仮定法</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	

02以前	英語Ⅲ	担当者	笠原 誠也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を書く訓練を積んでもらう授業です。英語を書くことに慣れていない人がほとんどだと思いますが、そのような学生のための授業です。「書ける」ということは、本当にその言語の本質をつかんでいて始めて出来ることですから、「書く」という作業は、実は「読む」・「読める」ということと密接な関係があります。読むためには書けなければいけないし、書くためにはよく読めなければいけません。</p> <p>難しい理屈はさて置いて、実践を中心とするこの英作の講義は、単純な構造の英語から始まって、徐々に少しずつ複雑な英語を作れるようになることを目指す講義です。</p> <p>皆さんに実際に英語を作ってもらうことが授業の大部分を占めますが、手書きではなく、パソコンのワードを使用してキーボードで入力して頂く手法を取ります。</p> <p>単純な文章であってもとにかく英語での自己表現の願望を持つ方、読む力をもう一歩前進させたいと思っている方、忘れた英文法の知識を蘇らせたい方、歓迎いたします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単語・品詞</li> <li>2. 文の成分</li> <li>3. 名詞・代名詞</li> <li>4. 動詞</li> <li>5. 時制</li> <li>6. 形容詞1・副詞1</li> <li>7. 形容詞2・副詞2・感嘆文</li> <li>8. 比較</li> <li>9. 接続詞・前置詞</li> <li>10. 助動詞</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Fundamental Grammar and Vocabulary 角岡賢一他著 成美堂		平常点を重視します（全体の30%以上） それと定期試験の結果で最終成績を出します	

02以前	英語Ⅲ	担当者	笠原 誠也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 否定文・疑問文</li> <li>12. 不定詞</li> <li>13. 分詞</li> <li>14. 動名詞</li> <li>15. 現在完了・過去完了</li> <li>16. 受動態</li> <li>17. 関係代名詞1</li> <li>18. 関係代名詞2・関係副詞</li> <li>19. 語法・仮定法</li> <li>20. 構文</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	

02以前	英語Ⅲ	担当者	菊池 武
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アカデミックライティングの基礎となるパラグラフライティングについての基本的な概念を、できるだけ多くの英文にふれたり、実際に書く練習を積むことにより体得するようにします。また、アイデアをまとめること、下書き、改訂、校正といった英文を書くために必要とされる一連の過程についても、活動を行ったり、実際に英文を書いていく中で身につけていくようにします。クラスメートがお互いに書いた英文の下書きを読み合う中で、自分のパラグラフのみならず、他のクラスメートのパラグラフを評価する視点も学ぶようにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Paragraph Format</li> <li>3. Narrative Paragraphs</li> <li>4. Paragraph Structure</li> <li>5. Review I</li> <li>6. Descriptive Paragraphs</li> <li>7. Logical Division of Ideas</li> <li>8. Process Paragraphs</li> <li>9. Review II</li> <li>10. Comparison/Contrast Paragraphs</li> <li>11. Definition Paragraphs</li> <li>12. Review III</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Introduction to Academic Writing (Longman)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。	

02以前	英語Ⅲ	担当者	菊池 武
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に学んだパラグラフライティングの知識をもとに、エッセイライティングへと発展させていくことを目標とします。基本的な概念を学んだ後に、テーマを決め、クラスプロジェクトとしてエッセイにまとめていきます。ペアワーク、グループディスカッション、基本図書の読解等、直接書くことと異なる活動も含まれることもあります。書くまでにいたる過程の活動として重視します。</p> <p>また、学期の半ばと終わりに各学生が独自にテーマを決めてリサーチを行い、その結果をエッセイにまとめ、それに関するパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことにより、発表能力の向上を図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Essay Organization I</li> <li>3. Essay Organization II</li> <li>4. Opinion Essays I</li> <li>5. Opinion Essays II</li> <li>6. Class Project I</li> <li>7. Presentation I</li> <li>8. Class Project II</li> <li>9. Class Project III</li> <li>10. Class Project IV</li> <li>11. Class Project V</li> <li>12. Presentation II</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Introduction to Academic Writing (Longman)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。	

02以前	英語Ⅲ（春学期完結）	担当者	高木 亜希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっとeというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間でTOEICスコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・TOEICスコアが350～600点 （プログラムの性質上、350点以下、または600点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること</p> <p>本授業で求められる事項： ・20時間以上のぎゅっとeの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4回程度)</p>		<p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスとプログラムの説明</li> <li>2. 実力診断テスト・学習プランの作成</li> <li>3. 自主学習</li> <li>4. 自主学習</li> <li>5. 小テスト</li> <li>6. 自主学習</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. 自主学習</li> <li>9. 小テスト</li> <li>10. 自主学習</li> <li>11. 小テスト</li> <li>12. 実力診断テスト (変更する場合があります)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ぎゅっとeプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとeホームページ(体験版あり)<a href="http://gyuto-e.jp/">http://gyuto-e.jp/</a></p>		<p>出席 20%      学習プランと記録 30% 小テスト 40%      学習自己評価 5% 実力診断テスト 5%</p>	

02以前	英語Ⅲ（秋学期完結）	担当者	高木 亜希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっとeというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間でTOEICスコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・TOEICスコアが350～600点 （プログラムの性質上、350点以下、または600点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること</p> <p>本授業で求められる事項： ・20時間以上のぎゅっとeの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4回程度)</p>		<p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスとプログラムの説明</li> <li>2. 実力診断テスト・学習プランの作成</li> <li>3. 自主学習</li> <li>4. 自主学習</li> <li>5. 小テスト</li> <li>6. 自主学習</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. 自主学習</li> <li>9. 小テスト</li> <li>10. 自主学習</li> <li>11. 小テスト</li> <li>12. 実力診断テスト (変更する場合があります)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ぎゅっとeプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとeホームページ(体験版あり)<a href="http://gyuto-e.jp/">http://gyuto-e.jp/</a></p>		<p>出席 20%      学習プランと記録 30% 小テスト 40%      学習自己評価 5% 実力診断テスト 5%</p>	



02以前	英語Ⅲ	担当者	堀 いくみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、二つの点に重点を置きます。英文のつくりを文法的に基礎から見直すことと、つながりのある3つの英文を書くことです。パラグラフ・ライティングの準備段階にあたるこの「3行英文ライティング」の演習により、内容的にまとまりのある複数の英文を書く力の基本を身につけることができます。</p>		<p>それぞれの項目で、一つの日常的な話題を扱います。進行過程は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進行形 (Weather)</li> <li>・未来形 (The Four Seasons)</li> <li>・助動詞1 (Everyday Life)</li> <li>・助動詞2 (Campus Life 1)</li> <li>・受動態 (Campus Life 2)</li> <li>・比較 (Shopping)</li> <li>・不定詞 (Eating Out)</li> <li>・現在完了 (Music)</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
登美博之・Curt Wold 著『日常英語ライティング入門』成美堂、2007年		授業参加の度合と期末定期試験の結果を総合的に評価します。	

02以前	英語Ⅲ	担当者	堀 いくみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、二つの点に重点を置きます。英文のつくりを文法的に基礎から見直すことと、つながりのある3つの英文を書くことです。パラグラフ・ライティングの準備段階にあたるこの「3行英文ライティング」の演習により、内容的にまとまりのある複数の英文を書く力の基本を身につけることができます。</p>		<p>それぞれの項目で、一つの日常的な話題を扱います。進行過程は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分詞 (Television and Radio)</li> <li>・動名詞 (Methods of Communication)</li> <li>・前置詞 (Methods of Transportation)</li> <li>・間接疑問文 (Traveling Overseas)</li> <li>・接続詞 (Health and Exercise)</li> <li>・関係代名詞 (A Stay in Hawaii)</li> <li>・関係副詞 (A Home Stay in Auckland, New Zealand)</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
登美博之・Curt Wold 著『日常英語ライティング入門』成美堂、2007年		授業参加の度合と期末定期試験の結果を総合的に評価します。	

**2007年度**

# **外国語学部共通科目シラバス**

**(2003年度以降入学生用)**

【2002年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は  
『全学共通授業科目シラバス』に掲載します

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○本表は、2003年度入学者から適用する。

# 外国語学部共通科目（2003年度以降入学生用）

ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。  
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などをご確認ください。

## 目次

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜日 時限	単位数	開始 学年	履修不可の 学部・(学科)	ページ
07690	総合講座	上野 直子	春	水3	2	1	養 経 法	1
07691	総合講座	上野 直子	秋	水3	2	1	養 経 法	1
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養 経 法	2
	情報科学概論b	休講						
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	3
00058		金子 憲一	春	月4				
00074		田中 雅英	春	火1				
00093		田中 雅英	春	火2				
00208		内田 俊郎	春	木4				
00253		松山 恵美子	春	金2				
00138		長崎 等	春	金3				
13304		内田 俊郎	秋	木2				
	情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	4
00044		金子 憲一	春	月3				
00109		田中 雅英	春	火3				
09037		二宮 哲	春	水2				
00019		内田 俊郎	春	木2				
00255		松山 恵美子	春	金3				
00076		田中 雅英	秋	火1				
13306		内田 俊郎	秋	木3				
00231		松山 恵美子	秋	金2				
00141		長崎 等	秋	金3				
	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	各担当教員			2	1	養 経 法	5
13162		金子 憲一	春	月5				
00201		金井 満	春	火2				
13164		金子 憲一	秋	月5				
00202		金井 満	秋	火2				
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	6
00195		内田 俊郎	春	木3				
00060		金子 憲一	秋	月4				
00096		田中 雅英	秋	火2				
00131		二宮 哲	秋	水2				
00210		内田 俊郎	秋	木4				
09305	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	春	金4	2	1	養 経 法	7
00239	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	秋	金3	2	1	養 経 法	7
09308	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	秋	金4	2	1	養 経 法	8
00048	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養	9
00111	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養	10
00156	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	春	金4	2	1	養	11
00158	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	秋	金4	2	1	養	11
00172	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	春	水2	2	2	養(言)	12
00191	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	秋	水2	2	2	養(言)	12
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	2	1	養 経 法	13
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	2	1	養 経 法	13
	社会心理学a	休講						
	社会心理学b	休講						

03 年度以降	総合講座 変わる境界	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期は、わたしたちが暮らす社会とわたしたち個人の成り立ちにかかわるさまざまな「境界」とその変化について考えてみます。</p> <p>たとえば次のような境界をとりあげます。国と国との境。ジェンダーの境。肌の色や民族の間の壁。あるいは有機物（人間）と無機物（機械）との境界線。ここに挙げたさまざまな境界は、(500 年の)グローバル化と資本主義化の歴史のなかでどのように変化してきているのでしょうか。境界が形成される際、それが変化する際にはどのような問題が生じるのでしょうか。そして、かつてないスピードで境界の引き直しが進行し、「越境」がたやすくなった「いま」はどんな姿をしているのでしょうか。</p> <p>「境界」があれば必ず「越境」があり、そして「越境」の先には「混濁」があります。異なった文化、人種、言語が出会い、衝突と摩擦をともしないながら、多くの問題と可能性をもった新しい何かが生まれてきます。この点についても考察していく予定です。</p> <p>やや抽象的な話になりましたが、講義では担当者が具体的なトピックをとりあげ、受講生のみなさんが、自分自身の現在、自分自身が暮らす場所について考える材料を提供していきます。</p>		<p>(1)上野直子（外国語学部・英語学科）イントロダクション  (2)佐藤寛治（国際教養学部・言語文化学科）  ボーダーランド：ふたつのアメリカが別れるところ  （ティファナを中心に）  (3)平田由紀江（国際教養学部・言語文化学科）  朝鮮半島分断を「観光する」ということ  (4)片山亜紀（外国語学部・英語学科）  「女は産む機械」発言の何が問題か  (5)上野直子 封印された植物  （帝国とジェンダーをめぐるエピソード）  (6)毛利嘉孝（東京芸術大学） ロンドンの移民都市文化  (7)浅岡千利世（外国語学部・英語学科）  多言語社会と国境を越える教育  (8)柿田秀樹（外国語学部・英語学科）メディアの越境  (9)小谷真理（評論家・作家）（仮）女性とSF  (10)前沢浩子（外国語学部・英語学科）  少年俳優の演じる女—シェイクスピア劇のヒロインたち  (11)陳天璽(国立民族学博物館) 無国籍であること、いくつものわたし、いくつもの言葉  (12)高橋雄一郎（外国語学部・英語学科）  ゴメス・ペーニャのボーダー・パフォーマンス</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。</p>		<p>コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。</p>	

03 年度以降	総合講座 「場」をつくる	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は「場」をキーワードとして進めます。</p> <p>個人や社会は、さまざまな「境界」によって守られ、規定され、安定を与えられています。しかし、さまざまな理由で「境界」を越えざるをえなかった人々、「境界」からはじき出された人々、「境界」ゆえに苦しみを抱え込まれている人々が存在することも事実です。</p> <p>さまざまな事情で国境を越えた人々、超えさせられた人々（その代表が西アフリカから新世界へと運ばれた黒人奴隷でしょう）。あるいは女と男との定められた「境界」の内側には安寧の場所がない人々。「境界」を越えざるをえず、安住の「場」を得がたい個人が、どのようにして自分の人生の支えとなる「場」をつくっていくのかを考えてみましょう。</p> <p>秋学期にとりあげる「場」は、具体的な場所の場合もあれば、言葉、音楽、食文化というような具体的な場には限定されないもの場合もあるでしょう。またこのような「場」が、「境界」に与える影響についても考察してみるつもりです。</p>		<p>秋学期の予定については、秋学期登録に先立ち、掲示板に掲示するとともに、講義支援システムにも掲載します（なお、講義支援システムへの掲載ができない場合は、その旨を掲示します）。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。</p>		<p>コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。</p>	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組み、および、複数の言語を活用するための言語資源(辞書、シソーラス、コーパス、WEB)の使い方について学びます。さらに、実習を通じて、自動翻訳システムや質問応答システムの活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標、多言語情報処理の目的</li> <li>2 コンピュータの世代論と情報処理</li> <li>3 コンピュータの構成</li> <li>4 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理</li> <li>6 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>7 コンピュータによる日本語・英語の情報処理</li> <li>8 多言語処理のための言語資源—辞書、類語辞書、コーパス、WEB</li> <li>9 多言語間自動翻訳の仕組み</li> <li>10 質問応答システムと自動翻訳ソフトの演習</li> <li>11 オンライン多言語学習の演習</li> <li>12 インターネット上の多言語処理技術</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作</li> <li>2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング</li> <li>3 コンピュータ・ネットワーク</li> <li>4 インターネットの仕組み</li> <li>5 インターネットブラウザ・メール・検索</li> <li>6 情報倫理とセキュリティ</li> <li>7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定</li> <li>8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成</li> <li>9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用</li> <li>10 レポートの作成—文章校正、長文作成</li> <li>11 情報技術の応用</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用 I』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作</li> <li>2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング</li> <li>3 コンピュータ・ネットワーク</li> <li>4 インターネットの仕組み</li> <li>5 インターネットブラウザ・メール・検索</li> <li>6 情報倫理とセキュリティ</li> <li>7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定</li> <li>8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成</li> <li>9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用</li> <li>10 レポートの作成—文章校正、長文作成</li> <li>11 情報技術の応用</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用 I』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、表の編集</li> <li>3 計算式の利用、セルの参照方法</li> <li>4 グラフの作成、装飾、印刷</li> <li>5 関数の利用 (1)</li> <li>6 関数の利用 (2)</li> <li>7 関数の利用 (3)</li> <li>8 データベース機能とデータの処理</li> <li>9 プレゼンテーション(1)－作成(MS-POWERPOINTとは)</li> <li>10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ)</li> <li>11 プレゼンテーション(3)－発表</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、表の編集</li> <li>3 計算式の利用、セルの参照方法</li> <li>4 グラフの作成、装飾、印刷</li> <li>5 関数の利用 (1)</li> <li>6 関数の利用 (2)</li> <li>7 関数の利用 (3)</li> <li>8 データベース機能とデータの処理</li> <li>9 プレゼンテーション(1)－作成(MS-POWERPOINTとは)</li> <li>10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ)</li> <li>11 プレゼンテーション(3)－発表</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論 (プレゼンテーション)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpoint の基本操作 1</li> <li>3. Powerpoint の基本操作 2</li> <li>4. Powerpoint の基本操作 3</li> <li>5. 効果的なスライドとは</li> <li>6. プレゼンテーションの注意点</li> <li>7. プレゼンテーションの練習</li> <li>8. 個人プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 個人プレゼンテーション</li> <li>10. 個人プレゼンテーション</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降	情報科学各論 (プレゼンテーション)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpoint の基本操作 1</li> <li>3. Powerpoint の基本操作 2</li> <li>4. Powerpoint の基本操作 3</li> <li>5. 効果的なスライドとは</li> <li>6. プレゼンテーションの注意点</li> <li>7. プレゼンテーションの練習</li> <li>8. 個人プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 個人プレゼンテーション</li> <li>10. 個人プレゼンテーション</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b> 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストと HTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造と HTML</li> <li>7 ホームページの作成－テキスト</li> <li>8 ホームページの作成－イメージ</li> <li>9 ホームページの作成－リンク</li> <li>10 ホームページの作成－テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成－完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b> 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストと HTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造と HTML</li> <li>7 ホームページの作成－テキスト</li> <li>8 ホームページの作成－イメージ</li> <li>9 ホームページの作成－リンク</li> <li>10 ホームページの作成－テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成－完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 1）	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、同じ一連の操作を繰り返す場合、大変便利な機能である。ここでは、毎回行う一連の操作手順を記録・登録させておく「記録マクロ」を中心に学習していく。</p> <p>簡単な「記録マクロ」の作成から、そのマクロ機能で自動作成される VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎を理解することを目標とする。これまで習得してきた Excel 利活用基礎能力を基に、より実践的なマクロ機能を利用しながら、自分自身で Excel を利用していく Excel 利活用応用能力を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、Excel 基本操作の復習</li> <li>2 マクロ機能と VBA とは</li> <li>3 記録マクロの作成と実</li> <li>4 オブジェクトボタンからの記録マクロの利用</li> <li>5 マクロのコード入力</li> <li>6 第 1 回目課題提出</li> <li>7 簡単なゲームの作成（1）</li> <li>8 簡単なゲームの作成（2）および第 2 回目課題提出</li> <li>9 記録マクロと VBA の利用（1）</li> <li>10 記録マクロと VBA の利用（2）</li> <li>11 記録マクロと VBA の利用（3）</li> <li>12 確認テストおよび最終課題提出</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局		平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 1）	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同様。		春学期と同様。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同様。		春学期と同様。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 2）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、情報科学各論（中級－表計算応用 1）の単位を修得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論（中級－表計算応用 1）で学んだ記録マクロを、応用性のあるものへと発展させていく。</p> <p>ユーザフォームの作成および利用を通して、VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎をさらに理解しつつ、それらを作成する VBE(Visual Basic Editor)の利用についても理解することを目標とする。</p> <p>また、フローチャートおよびアルゴリズムを学習することで、論理的な思考を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスおよび記録マクロの復習</li> <li>2 VBA と VBE</li> <li>3 変数の利用</li> <li>4 条件による分岐の利用</li> <li>5 処理の繰り返しの利用</li> <li>6 配列の利用および第 1 回目課題提出</li> <li>7 ユーザフォームとは</li> <li>8 簡単なユーザフォームの作成（1）</li> <li>9 簡単なユーザフォームの作成（2）</li> <li>10 項目の選択を利用したユーザフォームの作成（1）</li> <li>11 項目の選択を利用したユーザフォームの作成（2）</li> <li>12 確認テストおよび最終課題提出</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局		平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習（1）</li> <li>3 HTML と FTP の復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTML と CGI）</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript（1）</li> <li>7 JavaScript（2）</li> <li>8 JavaScript（3）</li> <li>9 JavaScript（4）</li> <li>10 CGI の利用（1）</li> <li>11 CGI の利用（2）</li> <li>12 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示、紹介する。 プリントの配布（Web 上も含む）も行う。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格等とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級—HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済み、あるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJavaScriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと復習</li> <li>2. プログラミングの考え方</li> <li>3. Webページのネットへのアップロード等</li> <li>4. JavaScript 1</li> <li>5. JavaScript 2</li> <li>6. JavaScript 3</li> <li>7. JavaScript 4</li> <li>8. CGI</li> <li>9. ホームページのブラッシュアップ</li> <li>10. 情報の収集</li> <li>11. 応用</li> <li>12. その他</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある。データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p>&lt;受講者への要望&gt;  情報科学各論（初級一表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習</li> <li>2 表計算の復習（1）</li> <li>3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について</li> <li>4 並べ替え</li> <li>5 集計</li> <li>6 レコードの抽出</li> <li>7 条件検索 1</li> <li>8 条件検索 2</li> <li>9 データベース関数</li> <li>10 クロス集計とピボットテーブル</li> <li>11 まとめ</li> <li>12 実習試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう。そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p>&lt;受講者への要望&gt;  情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 データベースの概念と機能</li> <li>2 Access の基本操作</li> <li>3 テーブル</li> <li>4 テーブルと結合</li> <li>5 クエリ（1）</li> <li>6 クエリ（2）</li> <li>7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析）</li> <li>8 テーブル設計 2 （関係データ分析）</li> <li>9 テーブル設計 3 （テーブル作成）</li> <li>10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計）</li> <li>11 クエリ設計 1 （クエリの作成）</li> <li>12 プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『30H で理解できるアクセス 2003』， 実教出版 『図解雑学データベース』， ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論(中級-プログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説</li> <li>2 プログラミング言語の発展史</li> <li>3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ</li> <li>4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定</li> <li>5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認</li> <li>6 イベント駆動型プログラム</li> <li>7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方</li> <li>8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング</li> <li>9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計</li> <li>10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文</li> <li>11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し</li> <li>12 総合練習 総合問題、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 最初の講義で指示する。</li> <li>(2) 随時必要な資料を指示する。</li> </ol>		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03 年度以降	情報科学各論(中級-プログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返してプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方を始め、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用的なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ</li> <li>2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方</li> <li>3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成</li> <li>4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え</li> <li>5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成</li> <li>6 文字列の表示</li> <li>7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー</li> <li>8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き</li> <li>9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス</li> <li>10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート</li> <li>11 再帰というプログラミング手法</li> <li>12 総合練習 総合問題、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 不完全競争の理論</li> <li>9. 市場の理論①</li> <li>10. 市場の理論②</li> <li>11. 厚生経済学の基本定理</li> <li>12. 市場の失敗</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. IS-LM 分析</li> <li>9. インフレとデフレ</li> <li>10. 財政赤字と日本経済</li> <li>11. 開放マクロ経済</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス フランス語学科

---

2007年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	